

第3回

まちづくり評価報告書

平成22年3月

美唄未来会議

目 次

< 参考 > 美唄市の事務事業評価システム	1
< 参考 > まちづくり評価のサイクル	1
第3回まちづくり評価の進め方	3
評価ランク集計表	4

福祉のまちづくり

1 安心して子育てができる環境づくり (子育て支援、保育所など)	5
2 ライフステージに応じた健康づくり (健康づくり、保健、医療など)	9
3 障がい者や高齢者にやさしいまちづくり (障がい者福祉、高齢者福祉、介護など)	13
4 ふれあいと笑顔のコミュニティづくり (地域福祉、コミュニティ活動など)	18

環境のまちづくり

1 人と自然が共生できる環境づくり (自然保護、公害防止、環境行動など)	21
2 資源を生かす循環型社会づくり (ごみの減量と適正処理、リサイクルなど)	25

交流のまちづくり

- 1 みんなで担うひとづくり
(学校教育、男女共同参画など) 29
- 2 生涯学べる環境づくり
(生涯学習、スポーツ振興など) 32
- 3 交流のまちづくり
(地域間交流、国際交流、交流基盤、情報化など) . . . 36

まちづくり全体

- 1 都市環境づくり
(道路、上下水道、公営住宅など) 40
- 2 安全・安心な地域づくり
(防犯、防災、消防機能の向上など) 42
- 3 産業振興
(農業振興・農村振興、工業振興、商業振興など) . . . 43
- 4 みんなで取り組むまちづくり
(自立と協働など) 45

< 参考 >

- 美唄未来会議委員名簿 46
美唄市事務事業評価実施要綱 47

はじめに

今回が3回目となる「まちづくり評価」は、市が行っている事務事業評価、施策評価、政策評価の3つの階層の評価のうちの政策評価に当たるもので、3年に1回、ムダなく住みよいまちづくりができているかを市民の視点で点検しています。

私たち美唄未来会議は、第6期美唄市総合計画策定に当たり、市民目線で将来の美唄のまちづくりを考え、市長に提言をするため、平成21年6月から協議を進めていますが、この活動の一環として、「まちづくり評価」に取り組むこととなりました。

作業のもとになるのは、美唄21世紀まちづくりプラン（第5期美唄市総合計画）であり、その重点方向である「福祉」「環境」「交流」の各分野を中心にまちづくり全般に関して、計画どおり進んでいるか、その方向が正しいかなどについて、各種指標やアンケート調査の結果、あるいは他市との比較データなどを参考にしながら、議論を重ねるとともに、委員一人ひとりの生活実感を大切にしながら、この報告書をまとめました。

私たち委員一同は、今回の「まちづくり評価」を今後の最終提言を取りまとめる際の土台として、さらに協議を続けていきたいと考えておりますが、多くの市民の皆さんにもまちづくりを考え、議論していただくきっかけとなるよう願っております。

平成22年3月

美唄未来会議
委員長 山上 他美夫

< 参考 > 美唄市の事務事業評価システム

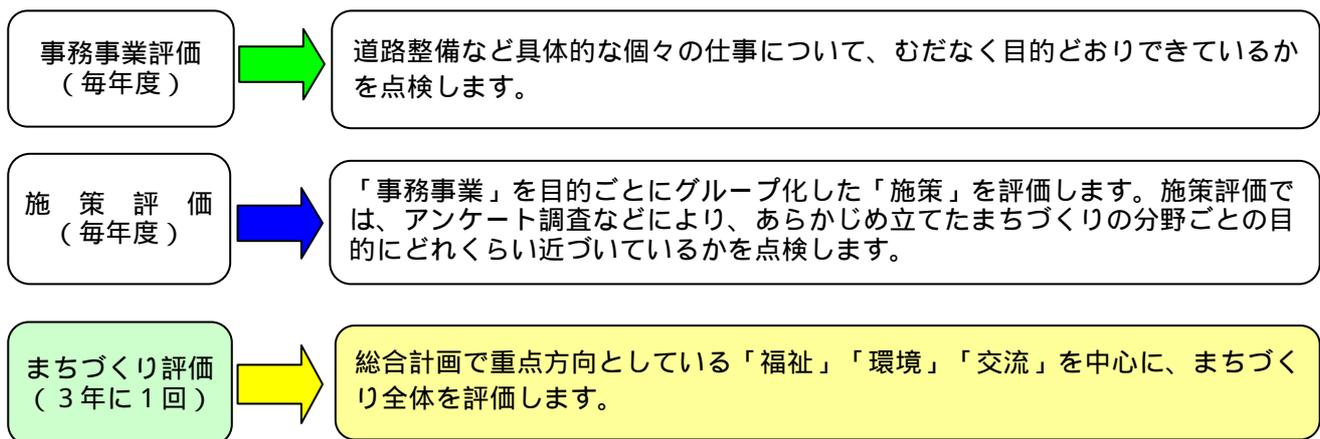
美唄市の事務事業評価システムは、美唄21世紀まちづくりプラン（第5期美唄市総合計画）前期基本計画を推進管理する手法として、平成13年度から導入しました。

このシステムは、市が行った仕事について、どのような効果があったかを測るため、市民の視点による「モノサシ」として成果指標を設定し、P D C A（Plan（計画）・Do（実施）・Check（評価）・Action（見直し））のサイクルの中で評価、点検し、その結果を次の仕事に生かすためのしくみです。

平成13年度は、事務事業に対する評価を行い、平成14年度には事務事業を目的ごとにまとめた施策に対する評価を行いました。また、平成15年度には前期基本計画における重点方向である「福祉」「環境」「交流」を中心にまちづくり全体に対する評価を行いました。

このように、「事務事業評価」「施策評価」「まちづくり評価」の3階層による評価システムを採っており、「事務事業評価」と「施策評価」は市による内部評価として毎年度、「まちづくり評価」は外部評価（市民評価）により3年に1回実施しています。

< 美唄市の事務事業評価システム >

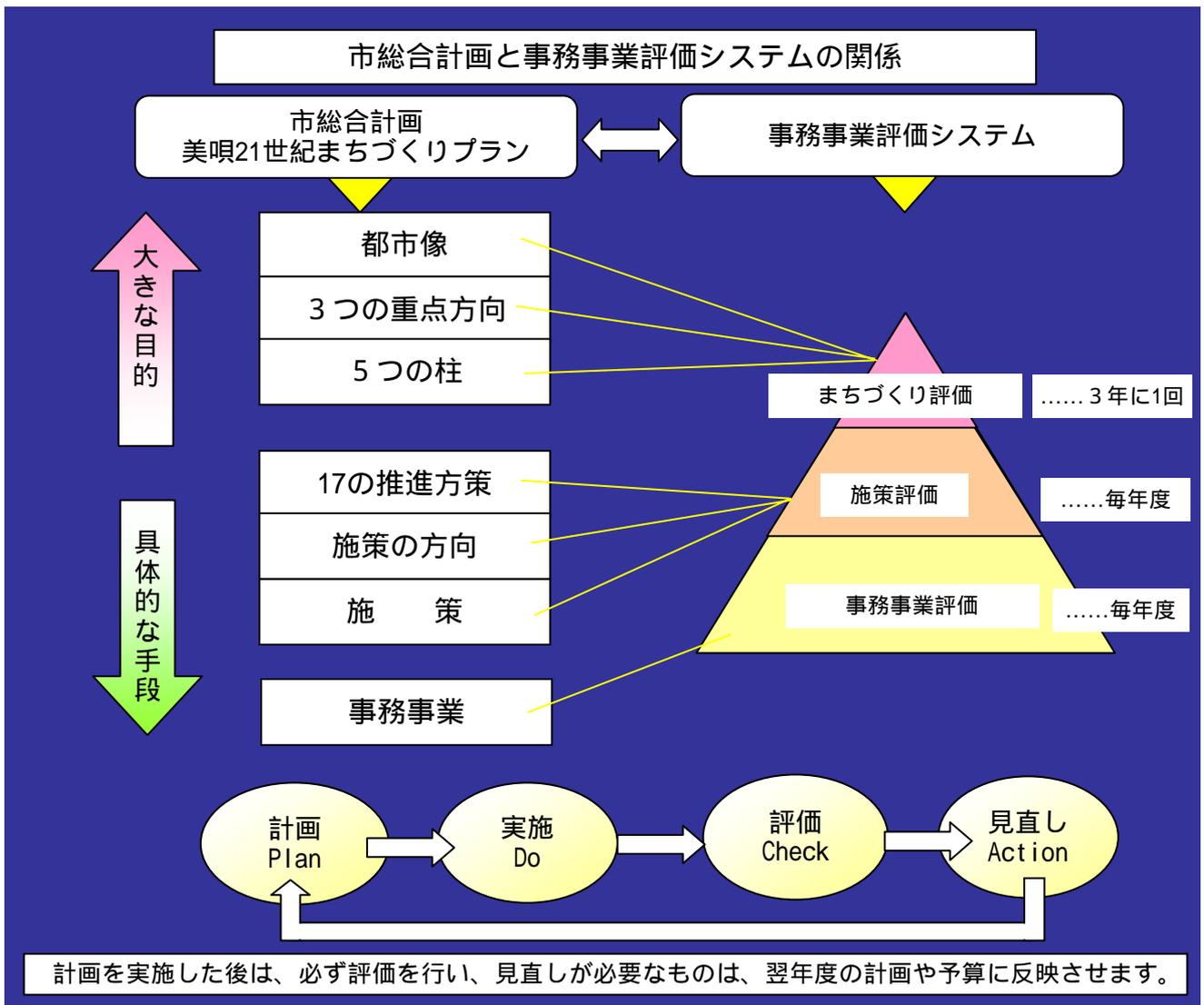
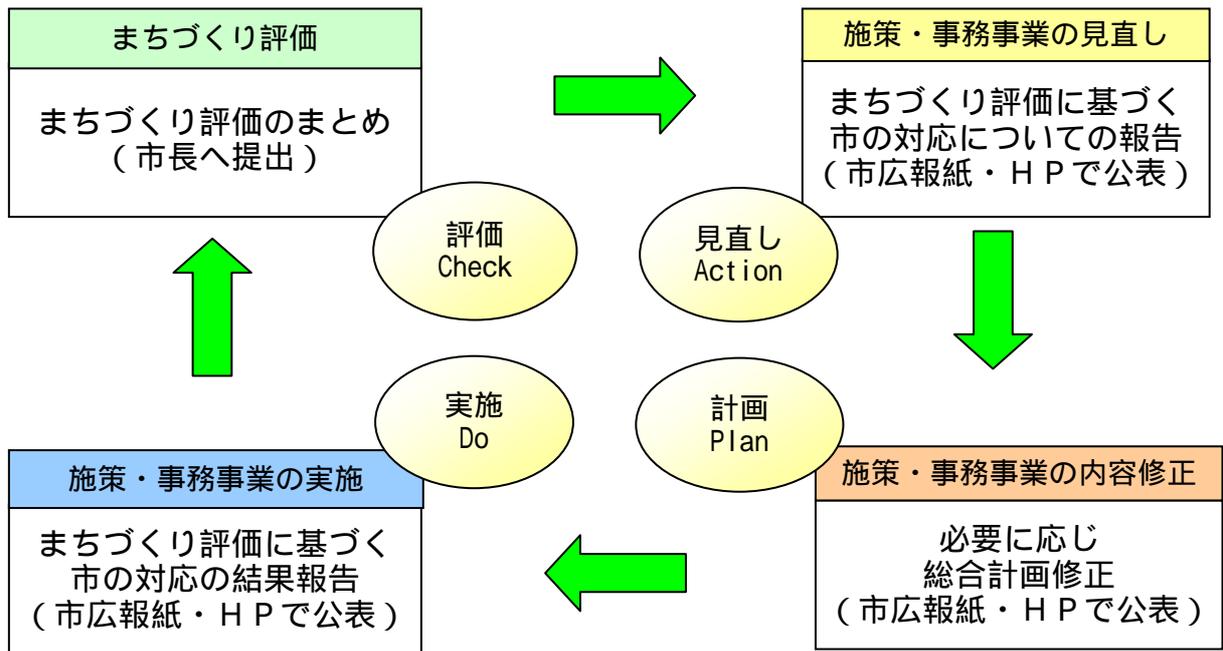


< 参考 > まちづくり評価のサイクル

まちづくり評価は、ムダなく住みよいまちづくりができているかを市民の視点で確認するため行うもので、いわば「市の通信簿」です。数字（指標）や他市との比較でまちづくりが計画どおり進んでいるか、あるいはまちづくりの方向が、市民ニーズや社会経済情勢、時代状況と合っているかなどをチェックします。

まちづくり評価は、評価が出された後で、市がそれを受けて、どう取り組むのか（まちづくり評価に対する今後の取組み報告）、取り組んだ結果どのように実施されたか（まちづくり評価取組み結果報告）を取りまとめて市民公表することとなっており、市が評価を受けて美唄のまちづくりにどう取り組んだかが見えるしくみとなっています。

<まちづくり評価のサイクル>



第3回まちづくり評価の進め方

美唄21世紀まちづくりプラン（第5期美唄市総合計画）の重点方向の「福祉」「環境」「交流」の各分野を中心に、まちづくり全体について評価をしました。

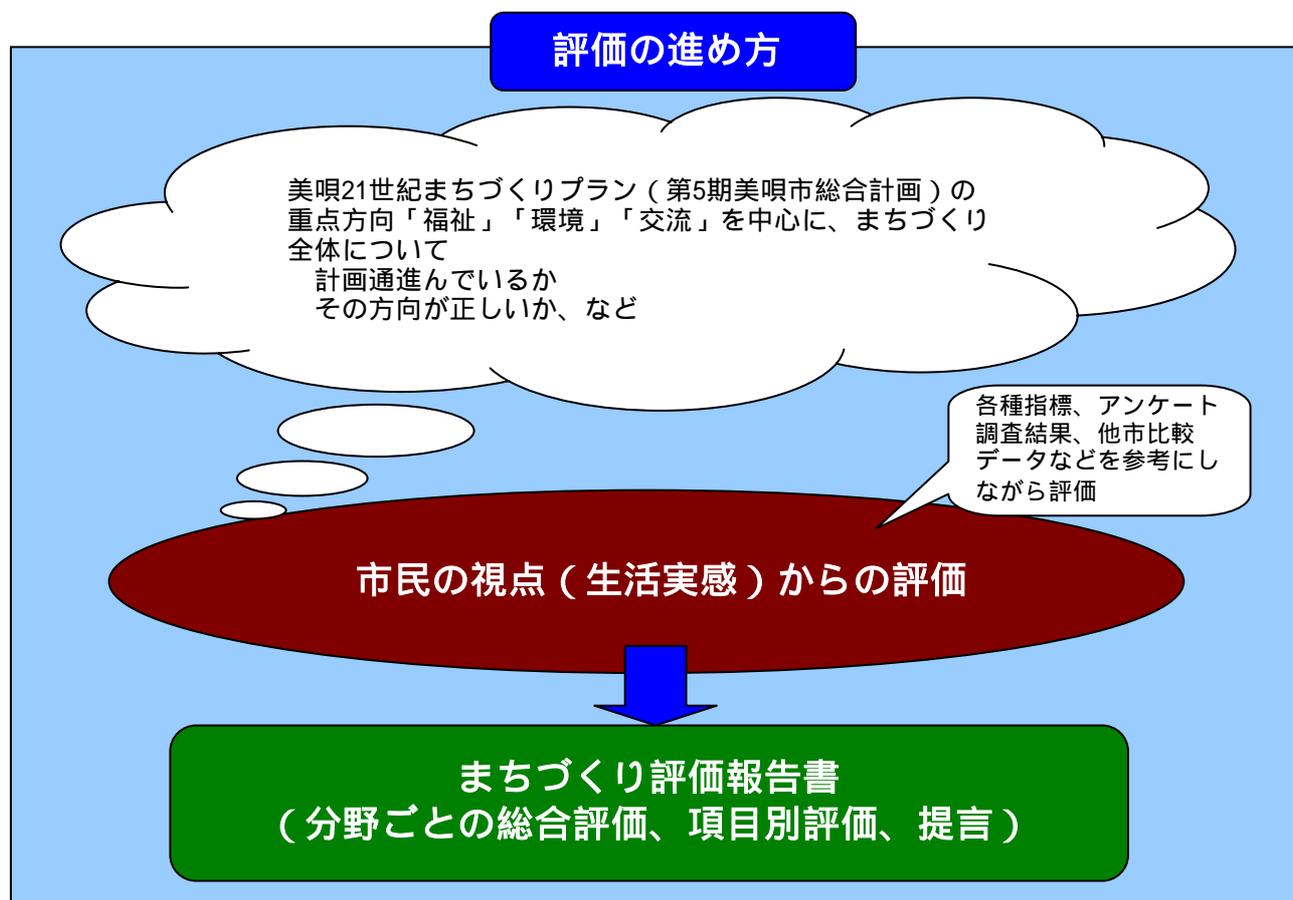
総合評価は、次の5段階の評価とし、分野ごとに、総括的な説明をつけました。

また、総合評価に至った根拠として、評価に参加した美唄未来会議の各委員の評価の集計結果と評価の状況（5段階評価のランキングとその理由）を掲載しました。

なお、今回のまちづくり評価においては、評価に基づいた市に対する「提言」は行わないこととし、「提言」に関しては、美唄未来会議から市長へ提出する第6期美唄市総合計画に関する最終提言書に一括整理することとしました。

【総合評価のランク】

- A：よくできている
- B：割とできている
- C：普通（可もなし、不可もなし）
- D：あまりできていない
- E：できていない
- （F：判断できない）



評価ランク集計表

分野	項 目	評価 ランク
福 社	1 安心して子育てができる環境づくり（子育て支援、保育所など）	C
	2 ライフステージに応じた健康づくり（健康づくり、保健、医療など）	C
	3 障がい者や高齢者にやさしいまちづくり（障がい者福祉、高齢者福祉、介護など）	C
	4 ふれあいと笑顔のコミュニティづくり（地域福祉、コミュニティ活動など）	C
環 境	1 人と自然が共生できる環境づくり（自然保護、公害防止、環境行動など）	B
	2 資源を生かす循環型社会づくり（ごみの減量と適正処理、リサイクルなど）	C
交 流	1 みんなで担うひとづくり（学校教育、男女共同参画など）	C
	2 生涯学べる環境づくり（生涯学習、スポーツ振興など）	C
	3 交流のまちづくり（地域間交流、国際交流、交流基盤、情報化など）	C
ま ち づ く り 全 体	1 都市環境づくり（道路、上下水道、公営住宅など）	E
	2 安全・安心な地域づくり（防犯、防災、消防機能の向上など）	B
	3 産業振興（農業振興・農村振興、工業振興、商業振興など）	D
	4 みんなで取り組むまちづくり（自立と協働など）	D

福祉のまちづくり

1 安心して子育てができる環境づくり（子育て支援、保育所など）

総合評価 C

総括的コメント

子育て支援センター「はみんぐ」を中心とした、子育て支援の施策や、保育所についても待機する必要があることについては、評価する意見が数多く見られました。しかしながら、子どもを産むことができる産婦人科が市内になく、子どもを産み・育てるうちの育てる部分については良いが、産む部分についての評価が低く、全体としては評価はCとなりました。

<各委員の評価の集計結果>

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	0	18	19	9	1	3	50

<各委員の評価の状況>

評価	理 由
B	「はみんぐ」を中心とした同じ悩みを抱えた親が集う場所は大切だと思う。共働きの親のための預かり保育については、地域のニーズに合わせた対応を考えて欲しいと思う。
B	環境は札幌に準じて良いと感じるが、財政を考えたときに継続できるシステムとは言い難い。
B	子育て支援センターとかいろいろイベント等をやっているような感じがするが、保育所については閉所とか待機児童というイメージが強い。
B	子育て支援センターの利用が浸透していることや子育て地域ささえあい事業、青少年健全育成事業など様々な支援がおこなわれている。保育所も入所児童数より定員が多くなっている（空きがある）など充実していると思う。
B	子育て支援センターを中心として、子育て支援環境づくりは割と良くできていると感じる。
B	子育て支援の環境が充実していると思う（はみんぐ等）。
B	こども・保護者を取り巻く環境は大きく変化し、家庭・地域の育児力の低下が危惧されている。さまざまな施策が展開され、着実に成果は見られているものと評価されるが、より庁内間・住民間の連携により効果を高めていくことが必要。
B	市中心部4箇所の保育所は待ちもなく、幼稚園もあり恵まれていると思います。子育て支援センターは多少敷居が高い市民もいるようです。
B	自分が子育てしていた頃より、いろいろな面で環境が整ってきているように感じる。親のニーズにあった事業等が増えているように思います。
B	少子化に伴い「はみんぐ」を中心とした支援が行われている。
B	待機児童もなく、学童保育施設もあり、一定の評価ができる。
B	小さな子供が回りにいないので、判断しかねますが「はみんぐ」といった子育て中の母親が気軽に集える場所があるので、そのことを広く知ってもらい、参加してもらえるようにさらに施策を継続していただければよいのではないのでしょうか。
B	フォト・エッセイコンテストが美瑛市で開催された。このような親子のふれあいを深めるイベントを今後も開催し、多くの市民にPRしていくことで、みんなで子育てをしていくという意識につながると思う。保育環境については延長保育や一時保育の実施により親の負担が軽減されていると思う。
B	保育施設は充実しているが病児、病後児保育の必要性和幼保一元化が望まれる。
B	放課後の児童会・児童会館等のサービスについては向上が図られ、心配が少なくなっている。
B	私も子供が小さい頃、子育て支援センターを利用させていただいて、いろんな人とふれあうことができ、とても助かりました。
B	支援体制は十分にあると思います。病院についても産科はないですが小児科はありますし。保育所は小さな子供を預かることから先生の増員（臨時職員等）など体制充実が必要だと思います。

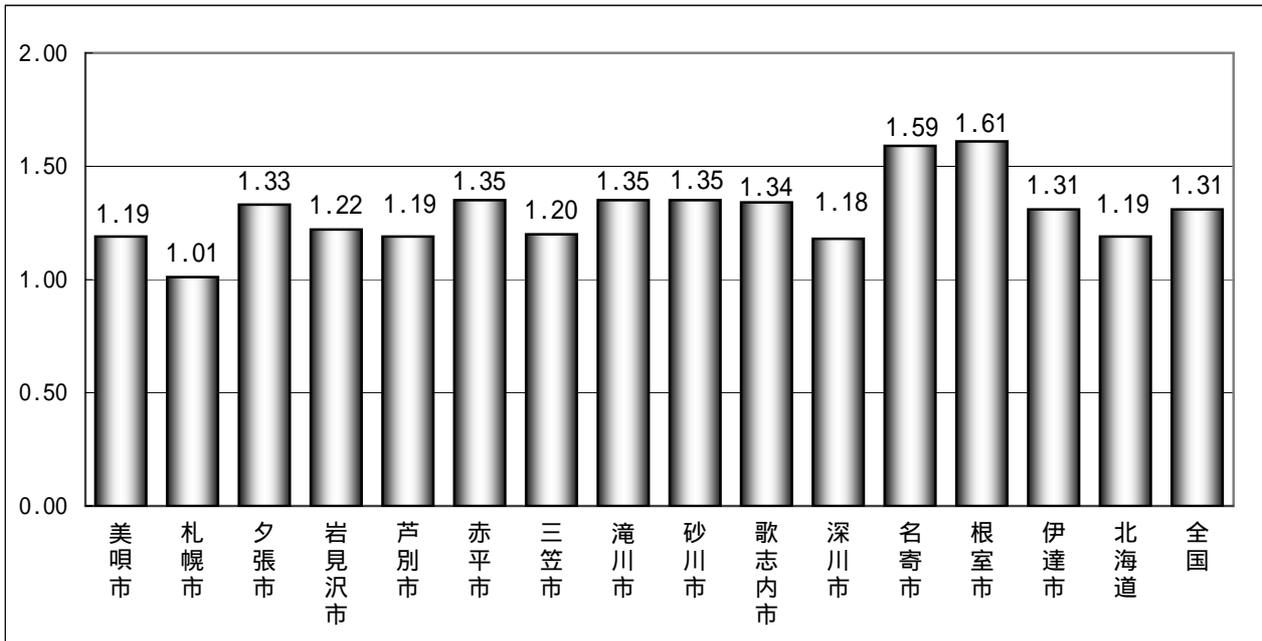
B	認可・へき地合わせて、保育所が9箇所(?)あることは、施設的には充実していると思う(このことにより民間参入を阻害しているとも言えるが...)。あとは保育所と子育て支援センターとが、今まで以上に連携していればもっと良くなると思う。
C	行政からのアナウンスをもう少し多くする。
C	計画では想定していないようですが、働き方が多様化してきた(特に不況下では平日日中のみの仕事を選べない)中で、市役所の勤務時間外(夜間や祝祭日年末年始)に働く人への対策がされていない(計画されないから実行されない面もありますが)と感じておりますのでこのような評価としました。ただ、計画されていないから実行されない面もありますので、辛めの評価でよいのか考えております。
C	子育て支援センターや保育所などは充実しているのではないかと思います。公園の整備など、行き届いていない場所もある。安心して家庭で遊べる場所がある!?
C	施設はあるが、保健その他の環境が不十分。
C	他の都市並みに施設が整っており、利用状況も悪くない。
C	共働きや一人親家庭が増えている中、子供を持つ親が不安になる事件を耳にする為、子供だけで留守番などをさせることが心配であり、学童保育の対象を小学校6年生までにしてほしいとの声もある。
C	美唄市は危険な街ではないので、大きな不安はないが、保育所や幼稚園に子供を預けるにはどうしたらよいかわからないところがある。母親が働かなければ保育所には入所できないのか。
C	保育施設について、定員的にはおおむね充足されているが、低年齢児の受け入れ態勢に若干不足があるように感じられる。
C	保育所の建物状況が悪い。
C	放課後児童など、都会より恵まれているように思う。
C	子育て支援や保育所のサービスについては一定の評価をするが、アンケートの結果にもあるように小さな子供を持つ親として一番心配なのは子供の健康であり、地域医療の再構築を早急に行い、不安を取り除くことが急務であると考える。
C	子育て支援事業は充実してきているが、保育所の効率的な運用を考える必要がある。
C	自分には子供がいないため、子育て支援について、不便等は感じませんが少子高齢化が進む中、保育所の施設数が多いように感じます。認可保育所とへき地保育所を含めてバランス良く配置する等統廃合を再度検討する必要があるのではないかと思います。(三井美唄と進徳または西美唄と茶志内が比較的近郊にありあつたりするので。)
C	保育施設は充実しているが、へき地保育所との差別化が不透明。 市立保育所の保育料が高いからという理由でへき地保育所に入所させている方も。 乳児保育については東保育所だけであり、不便。 保育施設の再編・統合を検討すべき。
C	保育料が高く、共働き世帯にとっては子育て支援となっていない。
C	(コメントなし) 4件
D	安全に遊んだりする場所ってどこですか?どこかの施設の中で遊ばせるのではなく、もっと屋外、例えば他市ではいろいろ面白くてきれいな公園がいっぱいあるが、そういった場所に子ども達の居場所をつくるべきでは?何やっているのか良く分かりませんし、この中で実施している事業に参加している子どもって毎回同じ子に限られてますか?うちの子の周りでこういったことに参加しているって聞いたことがないのですが・・・
D	子育てに関してはBランク、子供を産める環境は残念ながらEランクと感じている。 産婦人科及び小児科が充実していないと感じている。
D	子育てをしていないので詳しくはわかりませんが、子育てしやすいと思う市民の割合が20年度で37.2%という数字や、その他の項目の目標値に対する現状から判断しました。
D	産婦人科医が居ないのが最大のデメリット。 初産の家庭には大きな不安を与える。
D	市民アンケートで子育てしやすいまちの「いいえ」が62.8%約半分以上いるからです。少子化になっている今だからこそ、子ども一人ひとりに対して、親一人ひとりに対して、安心して子育てできる環境があればいいと思います。

D	はみんぐ、保育所、ゴミ袋の無料配布（3歳まで）等十分な評価(A)を出来るが、小児科等の病院に関わる部分が安心できないため総合として(D)の評価とした。
D	産婦人科がない、保育所のレベルが低い、放課後児童館等の対象年齢・対象世帯が不十分、塾が少ない、各種支援制度のアナウンス不足。
D	子供の医療費について、就学前の子供は無料になっていますが、これを小学校の2年生程度までひき上げてはどうか。（幼稚園から学校へといった環境の変化や体力的にもまだまだ弱い年齢であるので体調を崩しやすいことを考えて。）又、他の市町よりも少しでも子育てのしやすい環境を整えることが、少子化問題や美唄の人口減少に歯止めをかける効果となるかもしれない。
D	遊び場(公園)の設備が整っていない。
E	共働きで無ければ生活が難しい時代なので、勤務時間帯（9時～18時）の預かりのできる保育所を増やす必要がある。
F	子育てしたことがないので分かりません。まだ実感がない。
F	子育てしていないので不明。
F	(コメントなし) 1件

評価の参考としたデータ < 他市との比較データ >

合計特殊出生率

合計特殊出生率：1人の女性が一生に産む子どもの数。2.1以上であれば人口が増加傾向に、2.1以下であれば減少するとされている。



認可保育所入所状況

平成21年4月1日現在

区 分	公立		私立		計		入所状況	
	保育所数	定員	保育所数	定員	保育所数	定員	入所児童数	入所率
美唄市	4	180			4	180	166	92.2%
札幌市	28	2,290	165	15,095	193	17,385	18,188	104.6%
夕張市			4	140	4	140	142	101.4%
岩見沢市	1	90	13	930	14	1,020	998	97.8%
芦別市	2	170			2	170	131	77.1%
赤平市	2	120			2	120	119	99.2%
三笠市	2	105			2	105	78	74.3%
滝川市	5	460			5	460	413	89.8%
砂川市	3	240			3	240	226	94.2%
歌志内市	1	45			1	45	23	51.1%
深川市	3	165	6	215	9	380	339	89.2%
名寄市	3	220	2	120	5	340	319	93.8%
根室市	4	340	2	90	6	430	353	82.1%
伊達市	5	420	2	90	7	510	508	99.6%

資料：北海道子ども未来推進局HP

放課後児童施設設置状況

平成21年5月1日現在

区 分	公設公営	公設民営	民設民営	計
美唄市	3			3
札幌市		152	52	152
夕張市	2			2
岩見沢市	15		2	15
芦別市	2			2
赤平市	5			5
三笠市	1			1
滝川市	11			11
砂川市	2	2		4
歌志内市	1			1
深川市	1		6	1
名寄市	2		2	2
根室市	8			8
伊達市	9			9

資料：厚生労働省（北海道子ども未来局HP）

2 ライフステージに応じた健康づくり（健康づくり、保健、医療など）

総合評価 C

<p>総括的コメント</p> <p>健康づくりに関しては、保健センター等を中心に各種事業が行われており、評価されています。</p> <p>しかしながら、医療の分野では、医師不足により市立美唄病院の診療体制に不安があることや脳外科や産婦人科等の診療科の減少、救急医療体制についての近隣市との連携等に対しては低い評価となっています。</p>
--

<各委員の評価の集計結果>

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	1	6	21	15	5	2	50

<各委員の評価の状況>

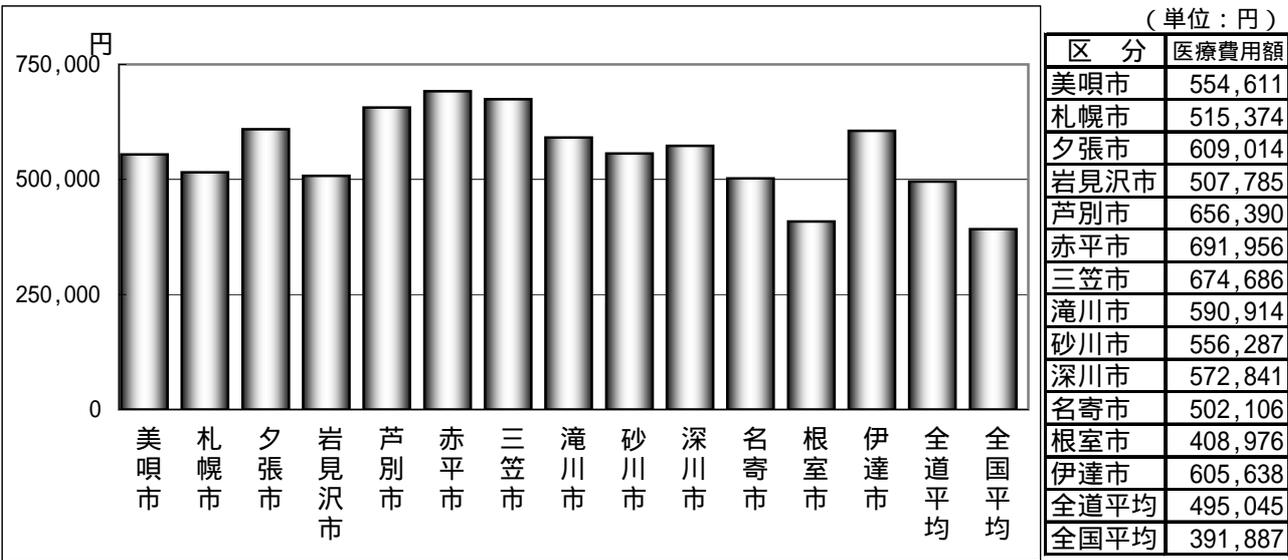
評価	理由
A	きめ細かく事業展開されていると思う。
B	アンケートで自分が健康だと答えている人が多いため。市で様々な健康診断を実施しているのはとても良いと思いました。ご高齢の方が多いので、もっと多くの方に参加していただいて、病気の早期発見等につながれば良いと思います。
B	医療機関は、他の都市並で市民の健康意識もよい。
B	各ライフステージに共通される健康づくりの課題は生活様式の変化により、生活習慣に起因するものが表面化している。早期に、適切に、改善することで予防が可能であり、各ライフステージへ取組を強化している。
B	現在は、労災病院があるので医師数は多いが産婦人科・脳外科等が無い。市民の健康管理の意識は多少高い。
B	保健センターを中心に健康づくりの分野は比較的充実していると思う。医師不足の問題は地方ではどうにもならない部分大きい。
B	(コメントなし) 1件
C	医療については、他市町村との比較データを見る限り、自分が思っている程悪いデータではないと思った。
C	健康づくりなど、あまり参加する機会がないが、よく目や耳にする。Bと評価できるが、医療体制の面では安心して美唄に住めない感じがします。
C	健康づくりは自発性に依存する部分が大きく対象者への啓蒙や勧誘からの改善が必要で、環境や設備の改善は、財政との係りになるので、評価はできない。
C	健康づくりや保健関係は割と良くできているが、医療関係に関してはやや不安がある内容となっていることから普通である。
C	健康の定義にもよるが、妊婦の抛り所がないのは、人口増を見込めないと感じる。砂川にあるという人もいるが、破水などの緊急に対応できないなら意味がない。
C	広報紙で各種検診や健康教室が周知されていると思う。
C	高齢者への健康づくりはよく行われているが、若年層への体力作り等（スポーツ含む）が少ないと思うが・・・
C	個人病院との連携と充実を目指しているが診療科の不足は課題。
C	子どもたちの運動能力の低下などが言われている。子どもに限らず、大人も含めて、もっと体を動かすような機会を増やしていけたらいいのではないかと思う。例えば「市民みんなで歩こう(No car)day」など。医療では、市立と労災病院の医師不足が気になる。

C	市立美唄病院について医師不足であることは理解しているが、緊急の場合に対応が遅れると思われることから、産婦人科（分娩）と脳外の早期再開を実現してほしい。
C	地域別に積極的に体力づくりに取り組んでいるようですが、全市的なものになってほしい。
C	貯筋体操など地域での健康づくりは進んでいると考えられるが、医療については、市立病院の今後の体制に不安がある。
C	保健センターの環境は良いと思うが、市立病院の医師不足の解消を図ってほしい。
C	曜日によって受信できない場合があるため、不便を感じる。
C	よくわかりませんが、働き盛りの市民に対しての「健康づくり」の事業が無いように感じられる。
C	老人クラブなどを主体とした貯筋体操などの自主サークル活動や公園でのウォーキングをしている方たちなどを多く見かけます。少しずつですが、市民の健康に対する意識も高まっているのではないのでしょうか。 医者の確保や継続して勤務してもらうことについては、市だけが頑張ってもどうにかなるものではなく、市民が安易に複数受診や時間外、休日に病院にかかることを止めることも一つである、といった意識改革をしてもらうための方策が必要だと思えます。（夕張のお医者さんがよく言ってますよね）
C	介護予防などの取組がなされているように思われるが、医療では病院が少なくなるなどがある。
C	上記（子育て支援）に関連するが、産科が美唄に無く地元出産が困難。
C	病院・医師の不足及び質の低下、市外の病院に掛かる市民の数の多さから見て医療については信頼されていないと思う、健康づくりなどのイベントは周知の方法や参加のしやすさなど工夫が必要。
C	保健センターでは積極的に活動を行っていると思うが、保険年金グループや地域包括支援センター、市立病院をはじめとする医療機関との連携がほとんどできていないと思う。
C	（コメントなし） 1件
D	医師などの医療スタッフの確保と資質の向上についてはダメ。特に医師は診療態度が悪い医師もあり、医療技術力よりもまず人間性がダメ。こんな医師しか地方には来ないのだろうか？また、医療連携体制についても、夜間休日の当直体制は医師会の協力もあり、対応できているが、結果としてすぐに他市医療機関へ搬送するなど、市立病院での受入ができておらず、良質な医療の提供には至っていないのでは？医師の確保が困難なことは重々承知しているが、そもそも地元で安心して出産できないような医療環境では誰も住みたくないのでは？
D	医療には多少の不安を覚えるのでDにしました。実家が札幌なので、どうしても都市間格差は感じてしまいます。
D	救急医療に不安を感じている。今後高齢者が増す中、循環器内科、脳神経外科の分野が特に不安です。
D	経過に基づき非常に努力していることから、評価は高くしたいのですが、今の医療の現状を考えると、このような評価にならざるを得ないと考えますので、ご了承願います。いくら努力してもどうにもならないこともよく分かります。全国的な医療制度改革の失敗のツケが住民にしわ寄せとなっている現状を考え、このような評価にせざるを得ないことをお許しください。ただ、健康づくりの面は自主的な活動とかもみられますのでE判定までにはならないと思います。
D	健康づくりに関しては、世代によって感じ方に差があると思うが、共通して医療への不安が大きいと思う（診療料が少ない又はないため、市外への通院が必要等）。
D	高度医療（救急搬送）機関との連携に不安を感じるから。
D	高齢者の介護予防など特定のものへの健康づくりは良く出来ているが、地域の医療体制が十分ではない。診療科目があっても、診療日が少なかったり、常勤医師ではないため、日替わりのような体制の医師に対して安心感がもてない。
D	こと医療に関しては、市立病院のことがあって不安をおぼえます。ただそれ以外のことについては、それなりにがんばっているのかなと...
D	福祉と医療は別物かもしれませんが、医療は不安要素が多すぎます。
D	保健・医療環境については、病院施設の充実等の点で大変不安である。市民の不安を払拭する取組を推進する必要がある。

D	高齢者の健康づくりに関しては貯筋体操など事業を行っていて良いと思う。しかし、救急医療体制や市立病院問題等、医療に関する問題が山積しており、抜本的な見直しや改革を行わない限り地域医療の再生は不可能と思う。また、医師確保が難しい現状の中で医師確保に固執するのではなく、他医療機関との連携や其の他の手法を模索し、地域医療を考えるべきではないか。
D	高齢者への食事の宅配サービスを一部実施しているが、このサービスをもっと多くの高齢者の人達が受けられるよう拡大すべきと思う。
D	青年期からの生活習慣改善も必要だが子どもの肥満対策等をもっと早くから改善させてゆく健康推進活動もほしい。
D	病院確保は大問題ですが、最悪でも砂川や岩見沢へのアクセス（無料市民バス）の整備で病院縮小もあるかもしれません。
D	(コメントなし) 1件
E	健康づくり、保健に関しては現状を評価する。医療に関しては医師不足もさることながら、病院の対応、赤字体質を改善しようとする姿勢が足りない様に感じる。医師不足ばかり理由にしすぎでは？
E	病院が休診しているところが多く、今までかかりつけだった科がなくなったり、市外に行くのが大変。
E	病院の科が不十分。 医師不足。 緊急時対応の問題。
E	市立病院の問題（医師の確保等）。
E	深刻な医師不足であるとは思いますが、市内で受診できる診療科は少ないため市外の病院へ行かなければならない市民もおり、また、市内で受診できる診療科（内科等）でも医師への信頼が問題なのか、わざわざ市外の病院へ受診しに行く市民もいると聞きます。同様に救急医療についても、市立病院では診れないために市外の病院へ搬送されることもあるため地域医療の十分な確保ができていないと思います。医師の数も大事だと思いますが、医師の質や医療設備も大事だと思います。良い医師には患者も集まると思うので、市外から美瑛市に受診しにくる患者も増えていくのではないのでしょうか。
F	美瑛市には医療機関がたくさんあるので、選ぶことが出来ていいと思う。健康づくりや保健については高齢の方々は興味があると思うが、若年層についてはほとんど興味がないと思う。ですから評価は出来ません。
F	(コメントなし)

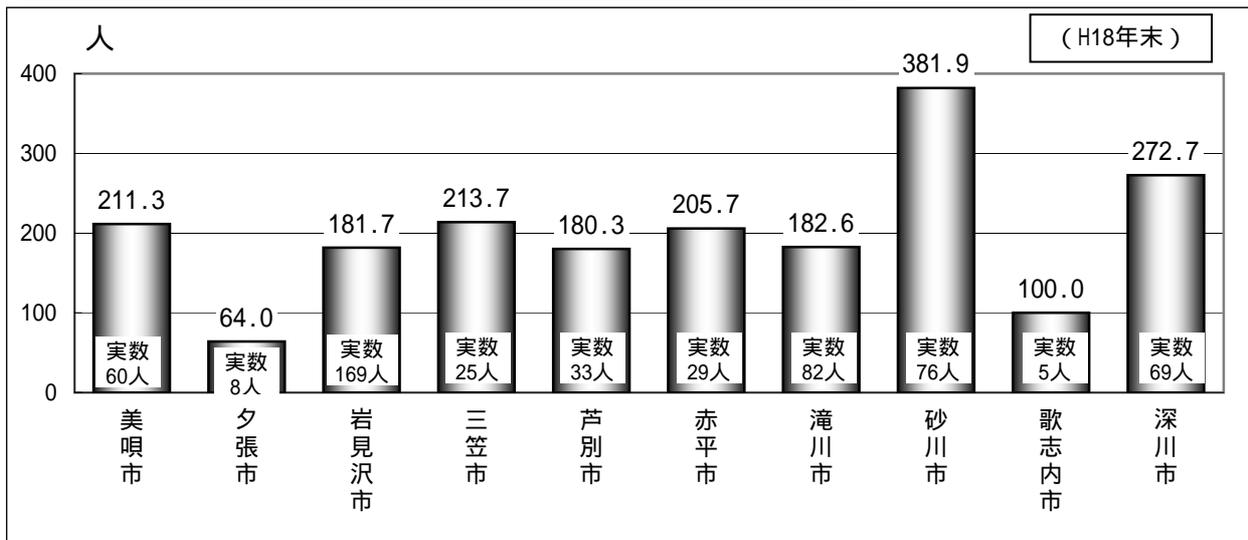
評価の参考としたデータ <他市との比較データ>

国民健康保険1人当たり医療費用（1年間）H19年度



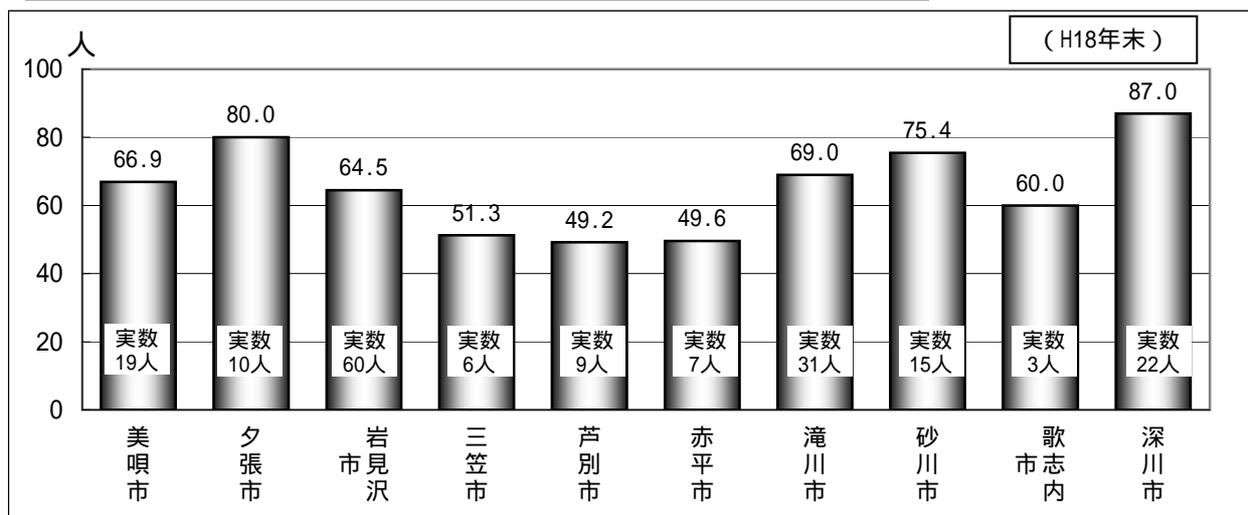
資料：国民健康保険の実態（平成20年度版） 国民健康保険中央会・都道府県国民健康保険団体連

人口10万人当たり医師数～空知管内10市



資料：北海道保健福祉統計年報

人口10万人当たり歯科医師数～空知管内10市



資料：北海道保健福祉統計年報

3 障がい者や高齢者にやさしいまちづくり (障がい者福祉、高齢者福祉、介護など)

総合評価 C

総括的コメント
 高齢者や障がい者に関する福祉については、施設も整備されており、サービスも充実しているという評価が多くありました。
 一方、サービスがまだ不足しているとする意見や、バリアフリー化が進んでいない、介護を行っている家族等への支援策が不足しているという意見もありました。

< 各委員の評価の集計結果 >

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	1	14	22	8	1	4	50

< 各委員の評価の状況 >

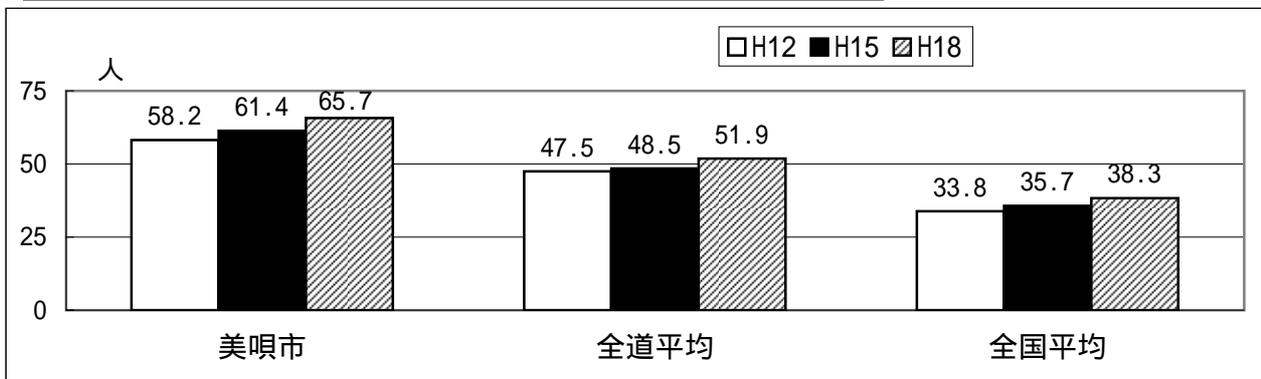
評価	理 由
A	障がいの方とか高齢の方への施策は一定の役割や成果が出ているのでは？あまり行政がサービスを提供しすぎると依存心が強くなり、自立心が低下するのでは？
B	いままでここに比重をおきすぎたのでは？悪いことではないが、若者が魅力のある街にはならない様な気がします。
B	公共施設や公営住宅の整備は進んでいると思うが、一般家庭での介護などはどうか？
B	高齢者が各々生きがいをもって暮らしているように思われる。介護も行政と民間がうまく連携。
B	これまでの水準を維持していければ良いと思う。
B	財政事情からある程度の事業縮小はあるが、基本的なサービス提供媒体はそろっていると感じる。
B	障がい者、高齢者には非常にやさしいまちと評価する。ひとつ挙げると、介護する者を助ける部分が少ない感じがするので、国・道に準じる基準よりもっと独自の基準を設け、さらなるサービスの質の低下を防げればと思う。
B	施設サービスや、在宅サービスが充実していると思う。
B	施設サービスや在宅サービスなど、内容は充実している。特に障がい者・高齢者にやさしい取組が行われているため、割と良くできていると感じる。
B	市内に施設も多数あり、他市に比べ恵まれた環境といえる。
B	美唄市は障がい者の施設も多く、また地元美唄の企業で働いている障がい者も多い。また老人ホームなどの高齢者施設も各所にあり、シルバー人材センターに登録している人数も増えていることから、健康な高齢者も多いと考えられる。
B	間口除雪や福祉灯油など様々な事業を行っており、今後も必要としている人が広く活用できるよう市民に周知してほしい。
B	高齢者福祉や介護については、積極的に事業を行っており、それ相応の成果をあげていると思う。
B	障がい者や高齢者に対する施策には十分に目が向けられているのでは・・・ パラマキ政策に留意すべき。
B	障がい者施設の数には足りているが、高齢者施設の不足とりわけ恵風園・恵祥園の充実が必要（入所費用・内容）。
C	介護の問題を今以上に考えてほしいと感じている。 ・医療・リハビリ・介護を結びつけた施設の推進 ・高齢者・障がい者に優しい除雪体制

C	交通機関（バス、タクシー）が不足で、外に出る機会が少ないように感じるから。
C	障がい者が必要なサービスを受けることのできる体制づくりがされている。
C	施設などはスロープなど設置しており、障がい者が使いやすいようになっている。
C	市の財源からでは、経費を必要とする制度には限りがあるので、利用者や内容にも制限が出来る為、あまり期待できない。民間で日常必要とされるサービスと同じくらい安価で簡単に利用できるようなサービスが増えることを期待する。
C	青少年関係の事業はたくさんあるが高齢者向けの事業が少ない気がします。
C	たくさんの障がい者施設がありますが、そこへのアクセスが距離的に、また道路環境的に大変だと思います（例えば駅から美唄学園とか道立リハビリセンター等）。福祉の街として充実を図るなら、街の中心部に施設を集中させるのも一案では。
C	バリアフリーになっていない公共施設があるように思われるが、福祉施設やサービスは充実している。
C	美唄は福祉のまちと思っていたが、改めて考えると少しイメージが薄いと思う。仕事面で最近関わりがないせいでしょうか...具体的にどうという考えが浮かびません。
C	福祉は施設もたくさんあり、在宅サービスも充実しているので、いいのでは...
C	役割や生きがいを持つことで、自立した生活を送ることにつながる。どのような障がいレベルによってもその人らしい生活が送れる場や人とのつながりが多ければ多いほど良いと思う。
C	良いも悪いも実感できる場がない。ただ、やさしくないようには見えない。
C	要介護高齢者率と、福祉施設のバランスが全道や他の都市と比較して標準的な状況である。
C	よくわかりませんが、介護予防のイメージが強い。
C	私のところは核家族のためあまり実感がないのですが、障がい者福祉などはもっと市外にアピールできるのではとったりもします。まちなか居住、医療の充実などが進展し福祉の進んだまちのイメージになると良いですね。
C	障がい者の働く場の確保が望まれる。
C	障がい者や高齢者の目線がわからないので評価するのは難しいが、どのようにやさしくしたいのかをはっきりさせたい。金銭面なのか、医療や介護。もしくは娯楽なのか。
C	福祉に係る制度は多く、複雑だと思いますので、実際は福祉に関する支援やサービスを受けられる人でも制度を知らないために、支援やサービスを受けれていない人もいないのではないかと思います。誰にでもわかるように情報発信していただければ良いのではないかと思います。（例えばフローチャートのようなもので、このような方はこんな支援が受けられますみたいな感じで）
C	歩道の段差解消やスロープの設置等、道路のバリアフリー化の取組を進めるべきと思う。
C	（コメントなし） 3件
D	これからますます高齢化を迎える美唄市において、介護をしている家族への支援策が不足していると感じていることと、福祉灯油などのサービスが市民税を納めていても(納めてるがゆえ?)使えないものも多いので、市民税がぎりぎりの所得で課税となっている方たちへの支援策があったらよいのに、と感じています。
D	市内の交通（バス）をもっと考えて、高齢者や障がい者が市内を何時でも気軽に移動できる施策を講じるべきである。
D	市の庁舎内を例にとっても段差やスロープの使いにくさが目立った。
D	美唄は高齢化率32.2%であり、要介護認定者数の推移は年々上昇しています。その中で、私は、介護施設に入れない高齢者の方がいると聞きました、多分、老人ホーム等に入りたい人もたくさんいると思います。その人たちのために、もっと施設を増やすことはできないのだろうかと思います。また、お金があまりなく、1人で寂しいという人のためになにかできないだろうかと思います。
D	夜間・休日の資源が乏しい(施設入所以外の対応方法が無い)ことや、福祉業界に携わる人材の質が両極化してきている(あたま数はいるが、必要な人材の確保・育成ができていない)ことが、評価を下げた理由です。
D	施設のバリアフリー化が進んでも、そこへ行くまでの手段等の問題。

D	障がい者を積極的に雇用又は雇用企業からの優先発注を推進してほしい。又行政が全部担うのではなく企業の力を活用する事も立案してはどうか。
D	歩道のバリアフリー化が進んでいない。 車道の舗装も、舗装率を上げる路盤の入らない簡易舗装ではなく路盤改良を含めた舗装として欲しい。
E	申請手続等むずかしい。
F	社会的弱者と主張し、権利のみ主張する人も多い。本当の福祉とは何なのか。予算の単なるバラマキとなってはならない。
F	(コメントなし) 3件

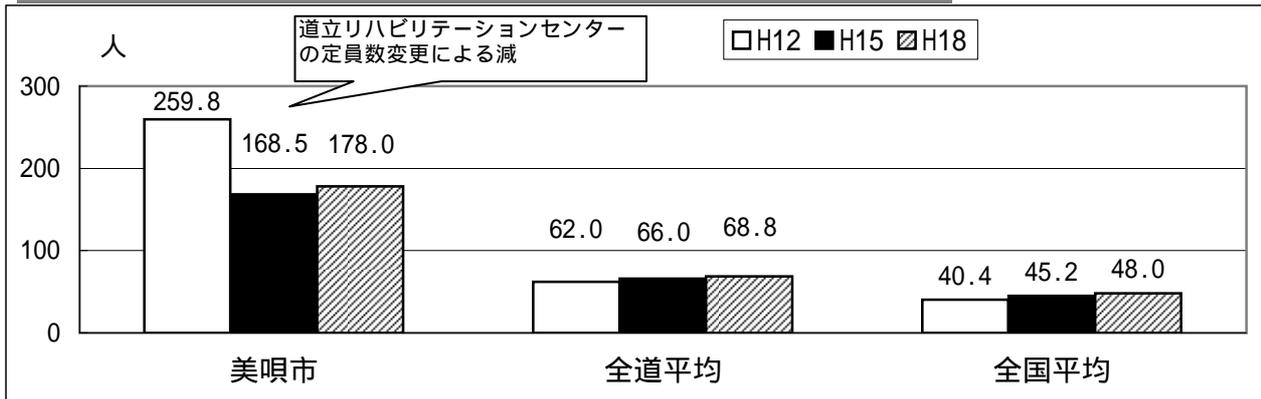
評価の参考としたデータ <他市との比較データ>

人口千人当たりの身体障がい者手帳交付数



資料：統計でみる都道府県のすがた（総務省統計局）

人口10万人当たり身体障がい者更正施設定員数



資料：統計でみる都道府県のすがた（総務省統計局）

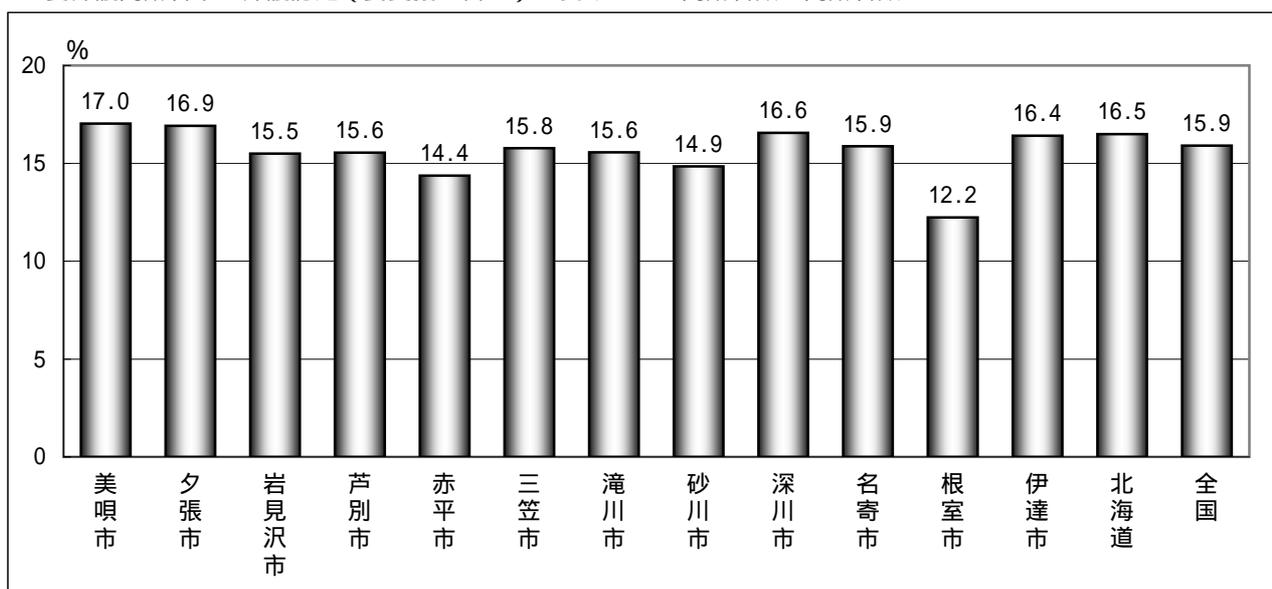
福祉施設：H18年

	老人ホーム数	身体障害者更生 援護施設数	保育所数
美唄市	2	1	4
札幌市	114	33	183
夕張市	3	2	4
岩見沢市	5	11	14
芦別市	2	0	2
赤平市	3	5	2
三笠市	2	0	2
滝川市	4	2	5
砂川市	2	0	4
歌志内市	2	1	1
深川市	3	0	9
名寄市	3	0	2
根室市	2	0	7
伊達市	7	3	7

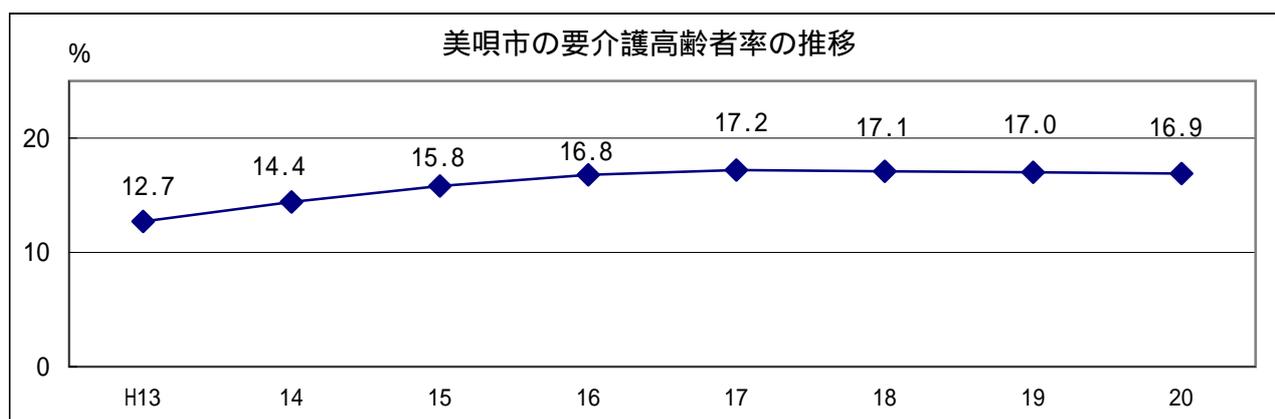
資料：統計でみる市区町村のすがた（総務省統計局）

要介護高齢者率：H20年3月末

* 要介護高齢者率 = 介護認定（要支援を含む）を受けている高齢者数 / 高齢者数

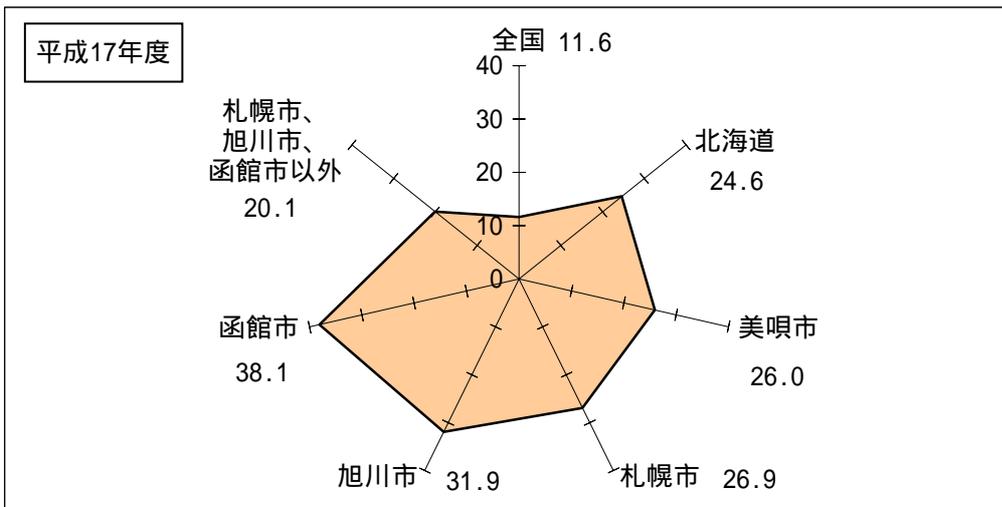


資料：北海道における介護認定の実施状況（北海道）

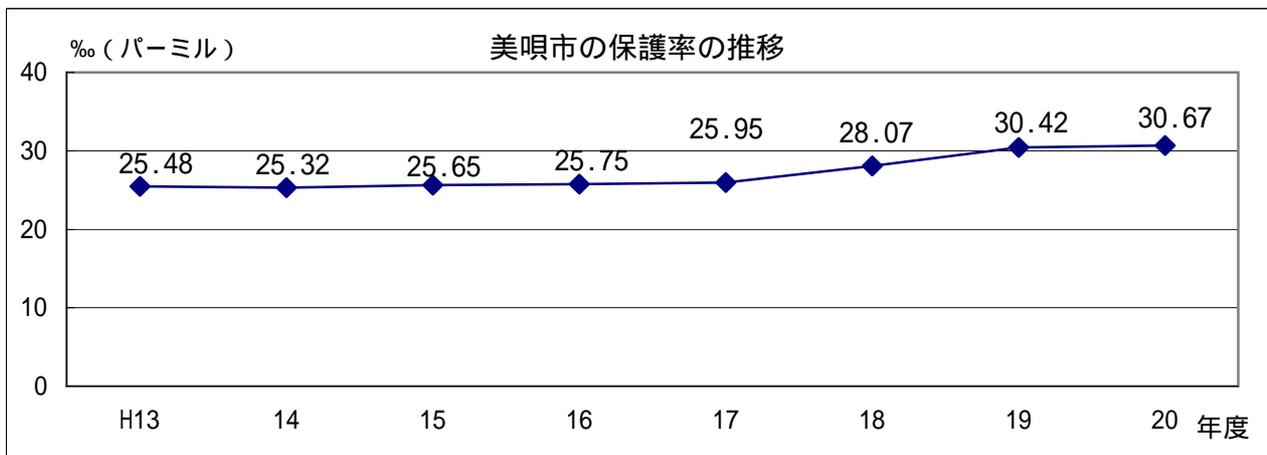


資料：美唄市高齢福祉課

生活保護率



資料：平成17年度統計で見る北海道の保険・医療・福祉から作成（北海道）



パーミルは1/1000

資料：決算報告書（美唄市）

4 ふれあいと笑顔のコミュニティづくり（地域福祉、コミュニティ活動など）

総合評価 C

<p>総括的コメント</p> <p>地域活動や町内会活動等については、地域によって活動の範囲や内容が異なっており、盛んであると捉えた方は高い評価をし、高齢化が進んでいることや人口減少等により、活動が盛んでなくなってきたと捉えた方は低い評価とされました。</p> <p>全体的には、地域活動は大切であり、どのように活性化していくかが課題であるという認識は共通していました。</p>

<各委員の評価の集計結果>

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	1	9	22	11	1	6	50

<各委員の評価の状況>

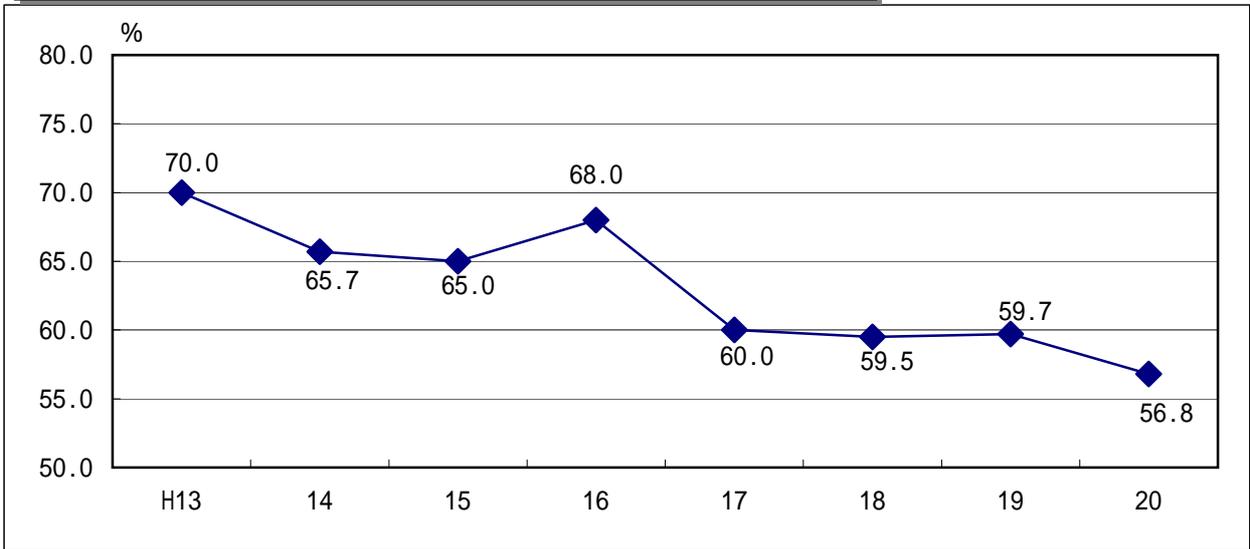
評価	理 由
A	全体的には評価できる。ボランティア活動がもっと広がる事に期待する。
B	今まで住んだまちで、最も町内会活動が盛んであるためBにしました。なかなか貢献できないのが辛いところです。
B	子育て支援センターは子どもの交流の場としてだけでなく、同じ悩みを抱える親の相談の場にもなっており、こういった場所は必要であると考えます。これからは、空き店舗などを活用し、児童と高齢者が将棋や囲碁などで交流できる場所がもっとあれば、生きがいや勉強になると思う。
B	自治組織やボランティア活動に対して積極的な行政の支援。
B	市民の要望には限度が無いので、程々の施策で良いと思います。
B	地域活動に参加している市民が増加していることを実感している。美唄高等学校も、ボランティア部を通じて、さまざまな活動に支援している。
B	町内会活動は、良くできていると思う。
B	ボランティアや地域での自主活動など、地域福祉の取組が、コミュニティの充実に繋がっていると感じるため、割と良くできている。
B	地味ですが様々な団体が、楽しみつつ手弁当で地域活動（イベント）を行っています。課題はその継続です。いくらかでも金銭的補助があると助かる、というのが主催者側の感想です。
B	（コメントなし） 1件
C	「福祉のまち」とも言えるので、その点から基本的なベースはしっかりしていると思うが、それ以上は目立った事業展開はないように思う。
C	あまり、関わった事がないので、よくわからない。
C	各地域で「自分たちの手でまち(地域)づくり」という意識が少しづつですが高まっているように見受けられ、実際に色々なことを実践している方たちがいます。今後は、その活動をいかに広めていくかが重要で、その大きな役割として「情報の共有」は欠かせないかと思しますので、その具体的な施策を市と市民と一緒に考えていくことが大切なのだと思います。他地域で行っていることを他の地域で「まね」をして自分たち独自の方法でコミュニティをつくっていく。「まねるための機会」を市の事業として展開すればよいのではないのでしょうか。 直接の補助金というよりは、意識を高める支援の方が良いと思います。（地域リーダー育成の講習会とか）
C	近所づきあいはありますが、近所の人たちが高齢化しているため、子どもたちが気にかけている状況。昔ほどの近所づきあいはない。
C	コアビパイにあるふれあい広場はとてもいいと思います。ご老人が楽しめるイベントが月に1回ぐらいあり、そして、たくさんの方が来てくれるようにし、生きがいを見出してくれたらいいと思いました。

C	コミュニティづくりのひとつとして、買い物や通勤・通学の途中に気軽に休憩や立ち話ができるようなポケットパークを整備してはどうか。
C	コミュニティの高齢化が進んでいるように思われる。町内会の活動などもそうであるが、若い世代と高齢者世代が交流を深め、一緒になって活動していくことが今後求められる。
C	コミュニティはすべての課題解決につながり、住みよい街づくりにつながる大切なもの。より活性化されることを期待したい。
C	すいませんが、勉強不足でよくわかりません。事例をメロディーとかHPに載せるとよいのでは。
C	地域住民の支え合いが課題となっているが、特別に何か行動を起こすと考えるとなかなか出来ないものである。日常生活の中で何気なくしていること、例えば挨拶だけでも交流や支え合いにつながることを理解してもらえるようになるといい。
C	地域でのイベントが少なく、近所づきあいが希薄になってきている。
C	町内会活動は新旧町内会や年齢によって、活動やとらえ方に温度差があると思います。
C	町内会活動やボランティア活動はあくまでその人の自主性によるものであり、活動に対する思い入れは個人個人で温度差があり、支え合いなどの必要性を周知することは理解できるが、正直よくわかりません。
C	熱心に活動している方も多いが、地域的な格差はあると思う。また、美唄市に限らず若い世代では積極的に地域と関わっていきこうとする人が少ないと思う（そのことに不便を感じていない）。
C	人が人を支えるボランティア活動をもっと積極的に推進し、特に、ボランティアを希望する側と参加したい側との橋渡しが出来ればもっと良くなると思う。アンケート結果にあるが、参加したいが機会がないという回答が30%もある、もったいないと感じる。
C	地域でできることは地域住民が中心となって行うべきであるが、そのためには各団体の活動状況等の継続した情報提供が行政側に必要。（意識改革には時間がかかる）
C	防犯・防災等の観点からも町内会活動は重要だと思いますが、町内会活動については、地域によって活動内容に差があると思うので、均衡が図れるように取り組んでいただければと思います。また、高齢化や人口の減によって町内会を続けることが困難な地域もあると思いますので近くの町内会と統合する等なるべく町内会活動が続けていけるようにも取り組めれば良いと思います。地域の問題は地域住民どうして解決していければ。
C	(コメントなし) 5件
D	「地域福祉」とは、地域に住むすべての人が、住みなれた家庭や地域の中で、自分らしく安心した生活が送れるように同じ地域に暮らす仲間として、地域全体で支え合っていく関係をつくること等の定義があります。ただ、地域福祉という言葉が行政が使う場合、何かズレがあるような気がしましたので、辛く評価しましたので、お許しください。
D	イベント等に頼らない、地域における活動、町内会のあり方を考える必要がある。
D	コミュニティ活動の充実化へ声かけ運動が必要。
D	世帯数が激減した町内会があり、統合なども必要であると感じている。美唄市にはリーダー役として推進していただきたい。
D	地域コミュニティが、旧態依然としている。
D	町内会同士の交流など連携が取れていない。
D	福祉会館がたくさんあるが、どのくらいの利用率なのか。維持管理費もかかることから統合の検討はできないものか。
D	行政がすべきことは限られるが、予算に頼らないコミュニティ活動を促進するために地域の人を育てるような地道な施策が必要だと思う。
D	地域活動の住民参加率の低下は町内会組織の高齢化もあるが行政も地域の問題に入り込んで住民と一緒に考えてゆくべき。
D	町内会活動をはじめとした地域の繋がりが希薄となっており、積極的に頻繁に地域等の活動に参加している数は数字で表されているものよりも少ないのではないかと感じる、イベントなどでのおきかけ作りも必要だが、コミュニティの大切さなど教育することが重要。

D	(コメントなし) 1件
E	(コメントなし) 1件
F	特に参加したことがない。
F	ボランティア(町内会)活動の参加がよい。
F	よく意味がわかりません。
F	良く分からないため。
F	よくわかりません。
F	(コメントなし) 1件

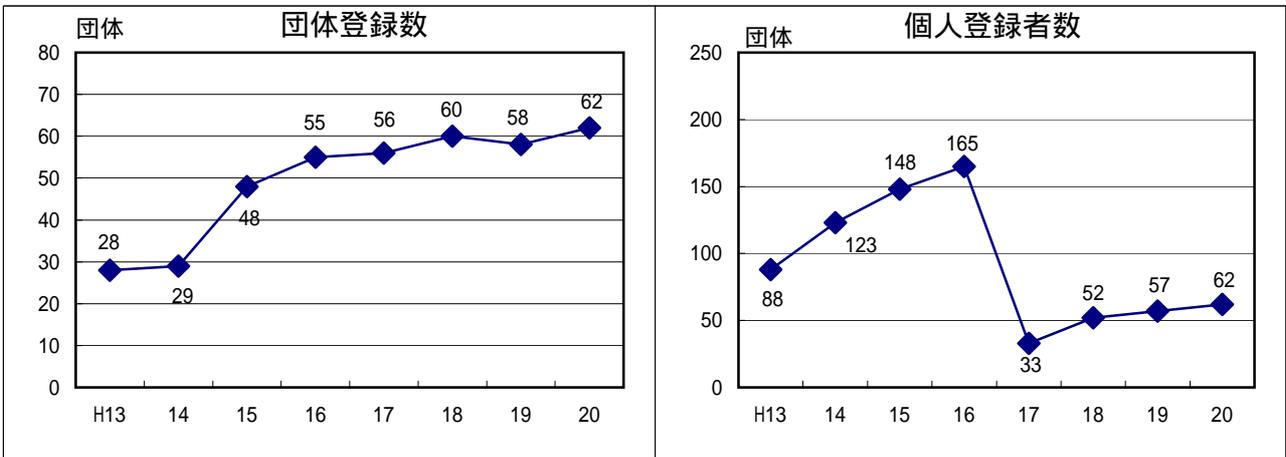
評価の参考としたデータ

地域活動に参加している市民割合



資料：まちづくり市民アンケート

ボランティアセンター団体登録数・個人登録者数



資料：美咲市社会福祉協議会

環境のまちづくり

1 人と自然が共生できる環境づくり（自然保護、公害防止、環境行動など）

総合評価 B

<p>総括的コメント</p> <p>宮島沼水鳥・湿地センターを中心として行われている、宮島沼の保護や普及啓発等に関する取組については高い評価がありました。</p> <p>一方で、宮島沼以外の自然保護や環境活動について、より力を入れるべきとの意見がありました。</p>

< 各委員の評価の集計結果 >

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	2	17	15	5	8	3	50

< 各委員の評価の状況 >

評価	理由
A	街路の緑化と整備が図られている。
A	宮島沼を通じて自然環境についていろいろ取り組んでいると思う。頑張ってますよ。
B	普段から環境保護問題を意識できるよう、宮島沼での環境学習を学校教育現場と連携して行う等、更なる充実を図るべき。
B	美唄には自然が多く、宮島沼をはじめ良い自然環境があるので、後世に残すようにして欲しい。
B	豊かな自然が多くあり、いきい場としての役割機能も果たしている。今後、緑の保全や温暖化防止にかけた取組が大事。
B	宮島沼や東明公園・アルテピアッツァ等自然を背景とした名称が数多くあるが、市外から訪れる人より、市民がその良さを知らなかったり、興味を持っていないことが残念。
B	宮島沼は子供達の環境学習なども行われているので充実していると思います。
B	宮島沼の湿地センターでは、より自然（沼）を身近に感じることができるため、市内外、年代を問わずよく利用されていると思う。環境行動については、様々なメディアによる情報が流れているため各々の意識は高まっていると感じる。
B	宮島沼の自然保護については力が入っていると思う。環境行動についても町内会単位ではあるがよくやっていると感じる。
B	宮島沼での子供たちを巻き込んだイベントで、自然と共生する心を育てていると思う。
B	宮島沼での活動が自然保護や環境行動につながっていると思う。
B	宮島沼での活動、ゴミの分別等評価出来る部分が多いが、農村部での野焼き、生活雑排水の処理（河川への放流）等の対応が少し不足していると感じる。
B	宮島沼がその象徴。クリーン作戦以外にも啓蒙活動が行われて良いと思う。イベントごみの処理など。
B	宮島沼・湿地センターやアルテピアッツァ美唄など自然と共に交流できる場所がある。今後もPRやイベントなども活発にし発展してほしい。
B	世界的に地球温暖化防止のため、CO ₂ の排出量を削減する動きが活発化している。美唄市でも、「エコバック」や「ハイブリッド車」の普及などにより、環境にやさしいまちになってきている。今後も植樹（桜・グイマツ）や自然エネルギー（雪・太陽光）の開発などを進め、一歩進んだ環境にやさしいまちを目指してほしい。
B	今後もより推進していただきたいと感じている。林業試験場との関係を今以上に密にしていきたいと感じている。
B	子ども達を対象にした環境学習が行われるなど、割と良くできていると感じる。

B	環境保全等の活動に力を入れているのは素晴らしいと思います。美唄には北海道レッドデータブックに掲載されている動植物も多いですし、ラムサール条約にも登録された宮島沼等の大切な自然があると思うので、このまま活動を続け、次の世代に変わらぬ自然のまま受け継いでほしいです。
B	(コメントなし) 1件
C	地域における環境保全活動等、更に充実させていく必要がある。
C	宮島沼や緑地等の自然環境を保護するため、市と地域が一体となった取組がさらに必要であると思います。また、市民一人一人に自然・環境保護について、意識を持ってもらうための啓発活動も必要ではないかと考えます。小中学校で美唄市の自然環境の学習をする時間があっても良いのではないのでしょうか。(すでにあり?)
C	宮島沼や美唄湿原など、自然環境に恵まれていることを改めて認識する行動が必要だと思う。市民の意識を高めるアイデアはなかなか難しいが。
C	宮島沼などの取組が良いと思う。
C	宮島沼を保全する取組は評価できるが、その他はよく見えてこない。
C	毎年クリーン作戦が行われているが、もう少し、環境美化を保つことについて意識できる方へ進んでいければ、もっと良いと思う。
C	資源はあるが、環境・自然保護にも取組に乏しい。
C	個人的な意識は結構進んでいるとは思いますが、それが全市的な取組になっていないのかなと感じます。具体的に見えてこないというか...
C	アルテピアッツァ美唄や宮島沼などは誇れる資産だと思います。ただ環境に対する活動はあまりみえていないように思います。
C	CO2削減の活動をもっと推進すべきと思います。植樹とか・・・。
C	(コメントなし) 5件
D	自然保護については、「宮島沼」だけのように感じる。いい人材もいるので、もっと力をいれてもいいと思う。
D	山林の保護に努力すべきではないか。(市外業者により、チップ材の確保のため山林が伐採され、はげ山が目立つようになった。)
D	宮島沼に係る環境保全の取組がよく伝わってこない。おそらくは充実した取組が行われていることと思うが、取組の充実について、一層発信する必要がある。
D	ゴミ処理に疑問がある(ゴミステーションの周りや道路などでゴミがきちんと処理されていない)。
D	CO2削減に対する補助金などが無い。
E	庁舎内における環境行動について環境部署からのメッセージが届いてこない。
E	路上や空き地などの衛生状況の改善を求める市民が多いので、今後の抜本的な改善策が必要と思われます。
E	予算が無いので事業が出来ないと言うのはおかしい。改善も事業であり市の事業内容を精査すると、予算の削減で事業カットばかりが目につく。一例として茶志内のゴミ廃棄場も予算が無く事業が遅れているとの言い訳は笑い話で、ゴミ事業の見直しから行なわなければ市は沈没する。
E	美唄市には自然がとても多く良い街だと思う。だが人と自然が共生するのは難しい。宮島沼も農家にとってはとても迷惑だが、マガンにとってはなくてはならない場所となっている。共生するというよりは、人が妥協するしかない。その場合の保証が必要なのでは。
E	農家によるゴミ焼きは減ってはきたももの、今年度も農家や心ない住民によるゴミ焼きがみられ、咳き込んでしまったことから低く評価を出しました。自然保護に関しては、ある程度頑丈な建物は必要かもしれませんが、あそこまで立派な建物を建てるのが必ずしも良いとは思えないことからあえて評価を落としました。
E	市の取組が遅い。
E	活発ではないと感じたから。
E	(コメントなし) 1件

F	美唄においては特に自然保護が必要だとも思わないが、公害防止、環境行動などお金を掛けて改善することも大切ではあるが、公害を防止する教育をもっと積極的にすべき。
F	市で何をしているのが、分かりません。
F	(コメントなし) 1件

評価の参考としたデータ < 他市との比較データ >

自然保護の状況

国指定鳥獣保護区

平成19年11月1日現在

類 別	箇所数	目 的	備 考
大規模生息地	10	行動圏が広域に及ぶ大型鳥獣の保護	道内1箇所(大雪山)
集団渡来地	26	集団で渡来する水鳥等の渡り鳥の保護	道内8箇所うち美唄市1箇所 宮島沼 41ha (H14.11.1指定)
集団繁殖地	12	集団で繁殖する鳥類やコウモリ類の保護	道内3箇所(天売島ほか)
希少鳥獣生息地	18	環境省レッドリストで絶滅危惧I類、絶滅危惧II類、絶滅のおそれのある地域個体に評価された希少な鳥獣の保護	道内2箇所(知床、釧路湿原)
計	66		

資料：国指定鳥獣保護区一覧(環境省)

宮島沼は、平成14年11月18日に世界的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録されました。

北海道指定鳥獣保護区

平成19年度

支 庁	箇所数	支 庁	箇所数
石 狩	14	宗 谷	17
渡 島	25	網 走	38
桧 山	22	胆 振	15
後 志	14	日 高	15
空 知	21	十 勝	33
上 川	40	釧 路	20
留 萌	16	根 室	10
		計	300

資料：北海道自然環境課

美唄市内には2箇所

東明鳥獣保護区 39ha 所在：美唄市字美唄1726番3、2665番4、2666番1、2484番1及び2484番2並びに字美唄及び茶志内1748番2、1749番及び1751番24並びに字美唄パンの沢2373番1、2373番6、2373番13から2373番15まで、2373番19及び2373番21の区域一円 指定：平成3年10月25日

峰延鳥獣保護区 1ha 所在：美唄市字峰延原野3027番の区域 指定：平成10年3月1日

鳥獣保護区：「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」の規定に基づき、環境大臣が、国際的又は全国的な野生生物の保護・管理を目的に生息地を含む区域を保護区として設定する制度の一つ。鳥獣保護区の指定者は環境大臣または都道府県知事で、それぞれ国指定鳥獣保護区(国設鳥獣保護区)、都道府県指定鳥獣保護区(都道府県設鳥獣保護区)と呼ばれる。鳥獣保護区では、鳥獣の捕獲が禁止されるほか、2007年の法改正から野生鳥獣の保全事業が実施できる。また、特に重要な区域を特別保護地区に指定することができる。特別保護地区では、建築物や工作物の設置、埋め立て・干拓及び木竹の伐採などの野生動物の生息に支障をきたすおそれのある行為について指定者の事前の許可が必要となる。

北海道レッドデータブックに掲載されている美幌市に生息する動植物

区 分	動 物	植 物
絶滅危惧種	オジロワシ	
絶滅危急種	オオタカ、カンムリカイツブリ、クマゲラ、シジュウカラガン、チュウヒ、ハイタカ、ハヤブサ、ミコアイサ	カキラン、サワラン、チョウジソウ、トキソウ、ヒメタヌキモ、ホロムイコウガイ
絶滅危機種		クロミサンザシ
希少種	アカショウビン、オオジシギ、ケアシノスリ、コクガン、コハクチョウ、セイタカシギ、トモエガモ、ハクガン、ヒシクイ、マガン	キツタ、クロバナハンショウヅル、タヌキモ、ノウルシ、ハルリンドウ、ホロムイリンドウ、ミズトンボ

レッドデータブック：絶滅のおそれのある野生生物の情報をとりまとめた本。国際自然保護連合（IUCN）が、1966年に初めて発行した。日本でも、1991年に「日本の絶滅のおそれのある野生生物」というタイトルで環境庁（今の環境省）が作成し、2000年から改訂版が順次発行。さらに、全国的には絶滅のおそれがないものでも、ある地域では絶滅の危険があるなど、野生生物の生息状況はその地域によって違うため、各都道府県がそれぞれの地域のレッドデータブックを作成しており、北海道では1994年に北海道版レッドデータブックの作成を始め、2001年に「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」を発行。

2 資源を生かす循環型社会づくり（ごみの減量と適正処理、リサイクルなど）

総合評価 C

総括的コメント
 ごみの分別と回収有料化に伴う減量化については評価する意見が多くありました。しかしながら、ごみの減量化に向けた普及啓発やリサイクルに関する取組についての情報提供が十分でないという意見や、不法投棄の増加や最終処分場の使用期限も含め、ごみ処理の将来についての検討を進めるべきとの意見がありました。

< 各委員の評価の集計結果 >

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	1	8	22	9	8	2	50

< 各委員の評価の状況 >

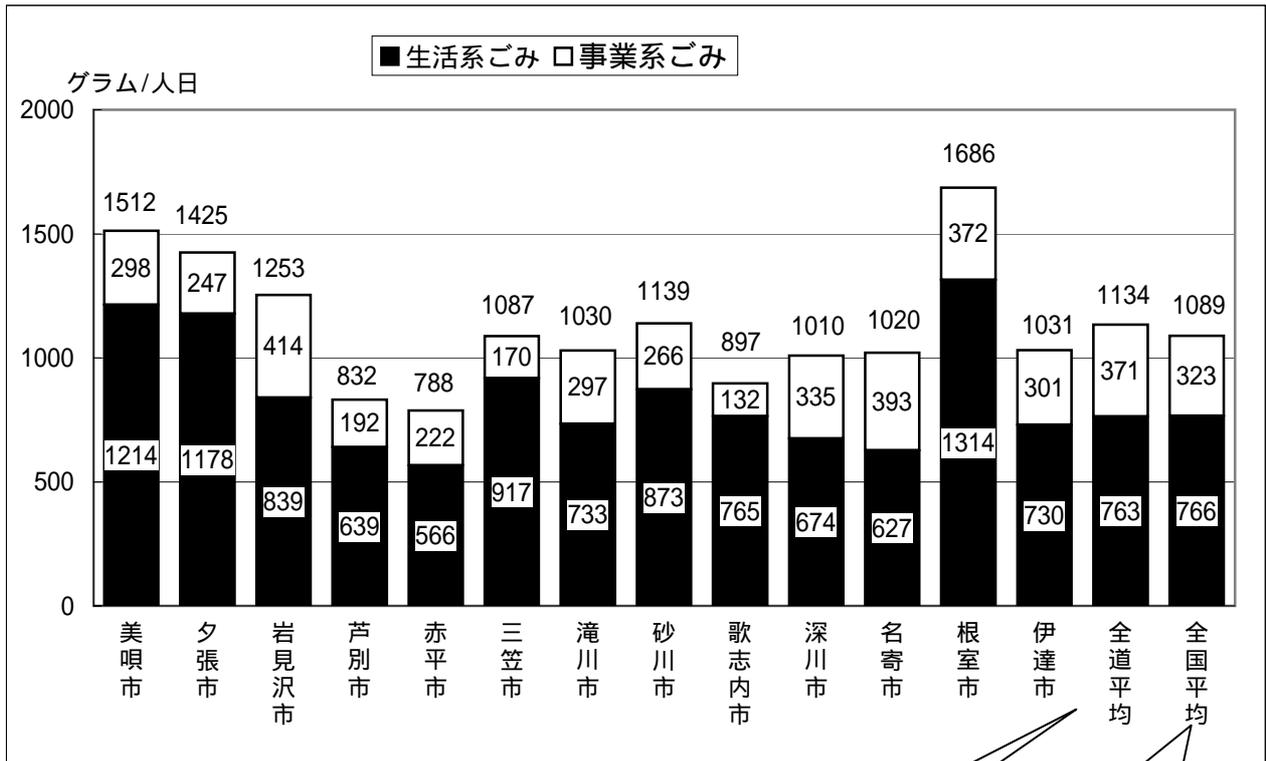
評価	理 由
A	美唄市はごみの分別が他の市町村に比べると細かい。多少面倒なところもあるがリサイクルなど環境には良いと思う。
B	リサイクル産業の推進をしていただきたいと感じている。 <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを使った堆肥工場 ・電器製品の基盤を使った金生産工場 ・ペットボトルを使ったリサイクル工場
B	雪の冷熱エネルギーを活用した美唄市独自の施設が実用化されている。今後も様々な分野で雪を生かすまちとして注目されてほしい。
B	他の市町村と比べるとごみの減量と適正処理は進んでいると感じますが、その先のリサイクルに関しては美唄市はどうなっているのか不透明でよくわからないと思います。
B	市民はできている。リサイクルされているかどうかは分からない。周知もされていないと思う。
B	ごみ有料化により、分別や処理の意識が高まっているため。
B	ごみ有料化に伴い、ごみの減量・リサイクルの意識は高まったと思う。今後、有料化の定着により、ごみ減量への意識が薄れないよう心がけていきたい。
B	ごみの分別や減量など、リサイクルの比率を高める取組が行われていると考える。
B	(コメントなし) 1件
C	減量に向けた取組はされていないと思う、リサイクルは集めてはいるが実際にリサイクルに回されているのが見えない、どちらも情報と教育が不足していると思う。
C	リサイクル処理などの取組がもう少し充実すると良いと思う。
C	もっとリサイクルの手法の紹介や減量による効果などを周知する方法を検討する必要がある。
C	燃えるごみや、資源ごみの扱いは他市と比べても標準的かと思います。プラスチックごみは埋めているため(記憶では)、Cにしました。
C	近い将来ごみ処分場の容量も限界となるため、早急に今後の方針を決め、計画的に処理施設の建設を考えるべき。
C	ゴミ問題については高機能(発電付)な焼却施設を近隣市町村と共同で設けるなど、埋め立て以外の方法も模索する必要があるのでは?
C	ごみ分別事典の発行など適正排出の推進に向けた取組は評価するが、一方、ごみそのものの排出を減らすための情報発信に欠ける。

C	ごみ問題は半ば、モラル・マナーの問題でもあると思います。そのため、マナー向上に向けての取り組みと、高齢者や障がい者、子どもなどにもわかりやすい分類方法の周知など(講習会など)が必要だと思います。
C	ゴミ分別は定着してきている。リサイクルの必要性、不法投棄防止等のPR活動が必要。
C	ごみの有料化が定着し、ごみの排出量は減ったようであるが、ごみのリサイクル化がもっと進めば循環型社会に近づくとと思われる。
C	ごみの排出量は減っているが、不法投棄件数が増えている。自分のごみの処理の仕方などが、将来、環境破壊など自分の生活に影響がでる事をもっと自覚すべきであると思う。
C	ゴミの減量が目的なら簡単。適正処理はされていないでしょ。リサイクルについての取組は他地域のみでは。農作物の廃棄物も多いが、その再利用も考えないと。
C	ゴミ処理費用及び処理量の認知PRが必要。
C	ゴミ処理の有料化後、一時的にゴミが減ったように思うが、現在は元に戻っていると感じる。また、いまだにゴミの分別ができていない家庭があるので、時々ゴミステーションにゴミが残っている。
C	ごみ減量化にむけてもっと市民の意識改革が必要。買い物等での過剰包装の抑制。
C	子ども達にゴミの分別をさせるのは大事。
C	現在行われている、ごみの分別とその資源ごみのリサイクルがどのようにされているかよくわかりません。ごみの減量は、「売る」側が政府も含めて行政が減るような対策をしないといけないのでは。過剰な包装が多いのでは。
C	課題はあるものの、一生懸命かと思えます。広域的な取り組みがもっとあっても良いかと感じております。ただ、平気でゴミを捨てたり、粗大ゴミを道路に平気で捨てたりする行為は決して許されないことから、行政に対してというより一部の心無い市民に対して評価を下げました。
C	エコの丘を有効かつ大事に使用して欲しい。
C	「環境づくり」にも記入したが、ゴミの分別や回収に関しては評価する。リサイクルに関しても同様に評価し今後の更なる活動に期待する。し尿に関して、いまだ下水道処理区域に関わらず接続していない家庭が見られるため、より接続に対する対応をしなければいけないのでは？
C	(コメントなし) 2件
D	大きな物の不法投棄数に表れない物は限りなくある。市民のボランティアで拾い集め処理されているがこれら投棄の実態を公表して啓蒙する事が必要。
D	リサイクル、適正処理については、ある程度できているが、減量化に関する取組が不十分。
D	ごみは回収されないものがずっと残ったり、不法投棄が多いので、十分とはいえない。
D	ごみの資源化にもっと努めるべき。ただ、埋め立てるだけではなく、富良野のような徹底的な資源化に取組を行うべきである。
D	ごみの有料化によって、排出量が減少傾向となっているが、リサイクル率を上げるためにも、今後は更なる分別の徹底や不適正排出ごみを減らすための指導が必要だと思う。
D	ごみの分別は周知されても減量まで徹底できていない。
D	ゴミ処理に疑問がある。
D	ゴミが有料化になったが思ったよりゴミが減量化されていないような気がするため、あまり出来ていないと感じる。
D	(コメントなし) 1件
E	生ごみの堆肥化など民間と連携した啓発事業を実施すべき。
E	一般的にあまり浸透していないのではと思う。PR方法も含めて事業展開を組み立て直した方がいいのではないかと思う。これからの期待したいところである。
E	以前のうるおい・まち並み部会で、雑紙のリサイクルに関する意見がありましたが、やはり、少しでもたくさん種類のリサイクルが実施されるよう取り組むべきだと思う。

E	住民1人当たりのゴミの排出量が多く、リサイクル率が極端に少ない。根本的な行政の対策と住民のゴミに対する意識改革が必要と思われます。
E	市の取組が遅い。市民に情報を提供し協力を促す工夫と努力が足りない。
E	ごみの量を減らす取組がさらに必要であると思います。また、最終処分場の埋立てですが、数年後には一杯になるかと思しますので、焼却施設を建設する等、次の処分場の検討を早急に行うことも必要だと思います。
E	ごみの分別ができてなく、リサイクル率が低いと感じました。また、有料化に伴い不法投棄も増えてしまったのかもしれませんが、町の中にゴミが捨てられているのは、環境によくありません。なので、市民への呼びかけがとても大切だと思います。
E	ごみ処理の評価と同様、まったく駄目である。国の施策をそのまま受け入れており、北海道、美唄に合った工夫がまったく見られない
F	アイヌの人に学ぶべき。スローライフ、スローフードなど。
F	(コメントなし) 1件

評価の参考としたデータ <他市との比較データ>

住民1人当たりごみ排出量：H19年度



資料：一般廃棄物処理実態調査（環境省）

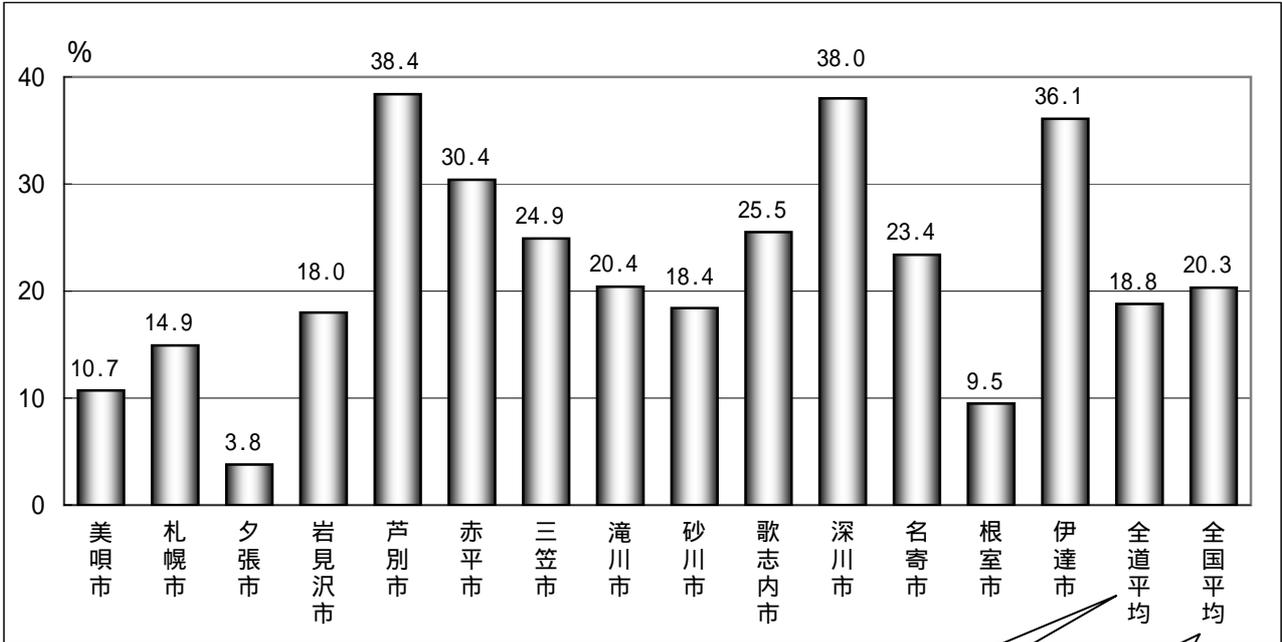
道内上位5市（少ない順）

赤平市	788 g
芦別市	832 g
留萌市	850 g
歌志内市	897 g
富良野市	907 g

全国上位5県（少ない順）

佐賀県	895 g
沖縄県	897 g
鹿児島県	924 g
熊本県	935 g
島根県	944 g

リサイクル率：H19年度



資料：一般廃棄物処理実態調査（環境省）

道内上位5市（高い順）

富良野市	61.2%
留萌市	41.2%
芦別市	38.4%
深川市	38.0%
伊達市	36.1%

全国上位5県（高い順）

三重県	31.2%
山口県	28.1%
新潟県	27.0%
埼玉県	25.0%
千葉県	24.9%

交流のまちづくり

1 みんなで担うひとづくり（学校教育、男女共同参画など）

総合評価 C

総括的コメント

学校教育に関しては、施設や環境については評価する意見がありましたが、教育の内容等についてはより一層の内容の充実を望む意見や、美唄らしい教育を推進すべきという意見が多数ありました。

また、男女共同参画については、市内では男女が平等とは感じられないという意見や、まずは市役所が男女平等を実現すべきとの意見もありました。

<各委員の評価の集計結果>

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	0	2	23	18	3	4	50

<各委員の評価の状況>

評価	理 由
B	地域・家庭の子育て力の低下や少子化が加速している現状から、多くの手で子ども・家庭を育てていくことが大切。
B	現在では各企業、団体、公務員及び審議会等の様々な分野で女性が活躍されていることから男女が平等ではないとはあまり感じないが、DV被害やセクハラなどは続いていることから今後も相談できる環境や周知を進めてほしい。
C	学校施設は充実しているが、放課後の活動を支える取組等が必要なのでは。
C	学校教育は、このまま出来る限り子どもたちが楽しく平等に学べる環境作りを進めていって欲しい。
C	放課後の活動を支える施設や地域での取組が進んでいる。
C	人手不足と言われる介護・福祉分野の人材育成が子どもの頃から行われれば、何か変わるような気がします。
C	ひとづくり、ということなのですがよくわかりません。
C	地域をあげて学校支援等を考え、ボランティアを募り、学校関係者だけでなく、学校教育に係わっていく。男女共同参画は個人の意識の問題（啓発も大事）。
C	地域の退職した学校関係者や高齢者が、子ども達に勉強を教える場（寺子屋）を作ることはどうか。
C	少子化の子供達に魅力のある美唄市である事を植えつける事。美唄離れしない様に。
C	小学校から大学まで環境はいい所だと思います。
C	これからは市内の教育機関が連携して相乗効果をあげる必要があるかと思っています。まだまだ出来ることはあるのではないかと思います。男女共同参画社会は実は良くわかっておりません。
C	この部門は市事業としては財源的な措置も厳しく、人的にも余裕がないところなのかなと思う。市役所ばかりでなく、これこそ市民との「協働」事業展開が必要と思う。
C	子どものいない人など、関わるきっかけのない人には、参加するのは難しいと思う。
C	教育施設は充実していると思う。
C	学校と地域のつながりは良くわからない。学校内では、活動など良くできていると思う。
C	学校教育はそれなりに進んでいるが、男女共同参画はまだ十分に進んでいないものと感じるため、普通である。
C	P T A等学校行事への参画人数が少なくなっているのでは？ 子供の教育は地域で支える必要があると思うが、親たちへの動機付けをどうすればよいか悩ましい。個別化しているから。
C	(コメントなし) 7件

D	放課後児童対策（学童保育）について、現在は保育所の延長としてのイメージが強いのですが、教育現場の延長として活動しても良いと思います。（例えば、学校の授業ではやらないことでも、教育的な要素のあるもの。伝統文化やスポーツ又は今あまりやらなくなった「そろばん」等、週に1時間でも良いのでやることによって子供達の知識等も広がると思います）
D	男女共同参画について、まずは市役所で男性職員の育児休暇取得の実績を作ってみては。（パッシング材料ともなりかねないが）
D	大型テレビにかける予算より、本当に子どもたちのためになる予算の使い方をしてほしい。
D	学校教育に関して（小学校について）、少人数学級制度の導入や担任の先生の他に補助の教員を各学級に配置している市町が既にあるが、これらについて美唄も実施すべきと思う。少子化が今の日本にとって深刻な社会現象であるといえるので、今の少ない子供達を大切にす意味からも、少しでも質の良い教育を受けさせてあげることが、ゆくゆくは美唄や日本の将来のためとなるのではないのでしょうか。
D	私は、学校教育のレベルを上げたほうが良いと思いました。美唄で育った子は、美唄の中学、高校に通う子が多いと思います。卒業したとき自分が行きたいと思うところに行ってほしいからです。レベルが上がれば、他の町や市から学生が来てくれると思います。
D	美唄市内の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、専修大学北海道短期大学、北海道中央コンピュータ・カレッジの連携した教育の推進をと感じている。
D	内容に工夫が足りない。参加するきっかけが無い。（誘い合いが無い）
D	男女共同参画と男女の特性を活かした役割分担の有効な活用方法を研究することも大切だと思います。
D	男女が平等だと感じていない市民の割合が高い。教育についてはよくわかりません。
D	専大と町の連携が希薄に感じる。他市から多く来ている専大をもっと活用すべきです。
D	人口(学童・生徒数)に対して学校数が多すぎて全ての学校に満足の行く環境を作るのは、市の財政状況から見ても厳しいと感じる。学校数を減らし、サービス、学習環境の充実を図った方が良いのではないかと。
D	情報の交流がまいち。
D	少子化による学校の閉校や学科の統合・廃止など必ずしも良い状態とは言えない。美唄の学校もそれぞれの学校の個性や校風を重視したOnly Oneの魅力ある学校を目指すべきである。また、男女共同参画は社会の要請とも合致して少しずつ進んでいると思う。
D	小学校での問題行動については、学校全体の意思？あるいは教員の個人的判断？かは分からないが、対応に疑問を感じることもある。また、確かな学力を身につけると言うが、地域間格差に留まらず、こんな狭い市内間でも格差があるのはなぜ？また、男女共同参画とはどういうことか？単に審議会等に女性を登用すること？市役所自体が男女平等による能力主義とも思えないけど・・・
D	時代が変わっていくなかで、課題が多くありすぎてなかなか進めていけないのが実情ではないでしょうか。
D	国が小学校などの教育方針を決めている中で、どれだけ美唄独自の施策ができるのかわかりませんが、学問の知識の高さだけではなく、他人の気持ちも思いやれる想像力豊かな子供たちが増えることを願っています。その方法の一つとして、「読書のすすめ」ではないですが、もっと本を読む子供たちが増えるといいのでは、と感じています。
D	学校間で学力差があり過ぎる。特色ある高校・大学・専門学校があるのだから、小中学校と連携をとり、子供たちの可能性を拡げて欲しい。
D	一部の中学校では、学力保障がされていなかったり、生徒指導が不十分であったりする実態がある。市教委は、学校改善の取組を推進する必要がある。
E	学校だけの問題ではないが、学力が低すぎる、生まれた地域の差が学力の差にならないようにすべき、子供以外に親や地域の人にも教育の必要性を説く機会が必要、男女共同参画については男女の労働条件が同じにならない限り不可能である、男性の収入に依存する関係上、介護・育児・家事などの家庭内の時間は女性に分業されることになり、審議会等家庭外の活動時間は取りにくくなるため、まずは市役所の管理職の男女比を改善する必要がある。
E	人口減の中で、特色ある学校づくりができていないと思えない。男女共同の場はないのでは？
E	学校教育にビジョンが見えません。子供は宝と言う格言を思えば、将来美唄に貢献するような子供達を育てると言うような指針が欲しい。
F	小学校を選んで親の都合のいいところに通学させるのはどうかと思う。

F	よく分からないため。
F	(コメントなし) 2件

評価の参考としたデータ <他市との比較データ>

公立小中学校数等：空知管内10市比較

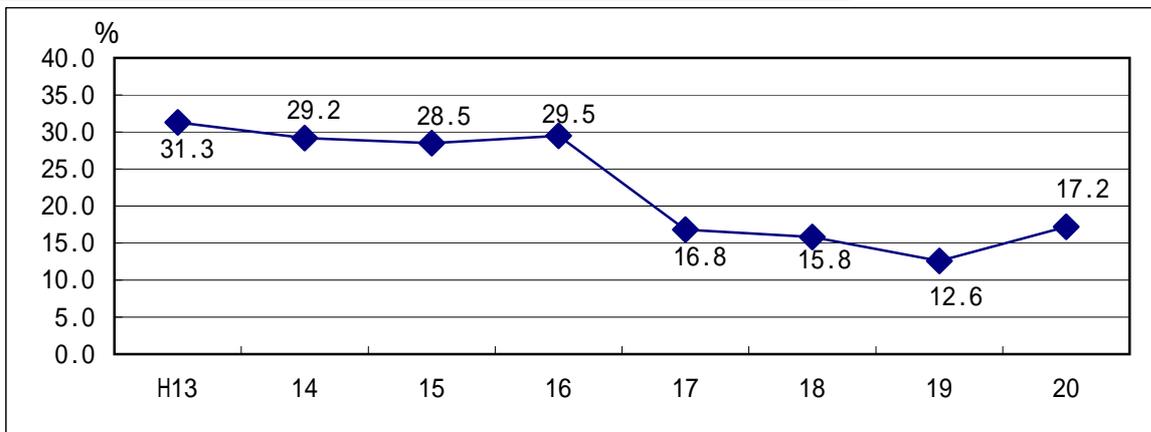
平成21年5月1日現在

市名	公立幼稚園		公立小学校				公立中学校			
	園数	園児数	学校数	学級数	児童数	本務 教員数	学校数	学級数	生徒数	本務 教員数
美唄市	3	57	7	64	1,161	101	4	29	664	66
夕張市	1	16	6	31	321	56	3	14	189	37
岩見沢市	1	45	15	167	4,455	293	10	95	2,419	204
芦別市			6	40	674	67	2	18	428	35
赤平市	1	81	5	40	511	61	2	15	278	32
三笠市			5	28	330	49	3	13	186	36
滝川市	1	34	7	96	2,164	142	4	45	1,189	88
砂川市			5	46	967	74	2	21	458	39
歌志内市	1	34	2	15	156	24	1	4	86	12
深川市			6	56	1,021	91	5	31	597	70

資料：北海道学校一覧（北海道教育委員会）

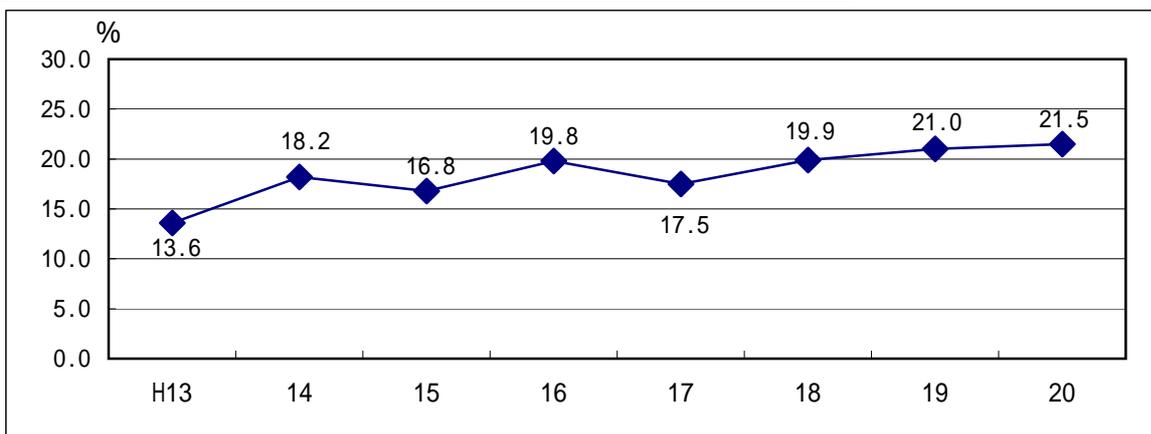
評価の参考としたデータ

現在、男女が平等だと感じている市民の割合



資料：まちづくり市民アンケート

市の審議会等への女性の参画率



資料：美唄市地域経営室

2 生涯学べる環境づくり（生涯学習、スポーツ振興など）

総合評価 C

<p>総括的コメント 生涯学習やスポーツ振興等に関する行事等については、充実しており、活発に活動されているという意見が多く見られました。 課題としては、活動内容や結果についてのPRが不足していることや、幅広い市民がより参加しやすいようにすることが挙げられています。</p>
--

<各委員の評価の集計結果>

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	1	11	25	7	3	3	50

<各委員の評価の状況>

評価	理由
A	おおむね良いと思う。色々な評価はあるにしろ、全国的に広まっているアルテピアッツァについては出来る限り協力した方が良いと思う。目に見えない効果(市のPR等)をもっと考慮しては。
B	様々な分野でスポーツを楽しんでいる個人的な団体の情報集約、ネットワーク化が必要。各団体の努力(ここがネック!)でポータルサイトに登録するなどとも要検討。もっと垣根の低い方法も考えないと...
B	毎月メロディーに掲載されているスポーツ等の成績からも、様々な分野で活躍している市民がいることが分かります。今後も地域や市がバックアップし、選手の能力が伸びる環境を整えてほしい。
B	パークゴルフ場など、生涯学習のための施設の充実は図られている。今後は、既存の施設等を市民が自覚をもってどのように活用するかが大切である。
B	担当課による市の施策はたくさん行われているので、知らない人へのPR方法を既に参加している人たちと一緒に考えていくことが必要なのではないのでしょうか。
B	生活を豊かにするためには欠かせないことであり、どのような年齢層にとっても必要。現在の社会背景からは特に若い世代にとっては優先性が低くなりがちか。高齢者層は貪欲に楽しんでいるように思う。
B	生涯学習やスポーツ振興については割と充実しているし、PRに関してもいろいろなものを活用しながらアピールし、新規参加者が増えていると感じていることから割と良くできていると感じる。
B	市民カレッジや交流行事などが沢山開催されていて参加者も楽しそうである。まだ、参加したことのない人にも気軽に参加してもらえると、その中から交流がさらに広がると思う。
B	市民カレッジ等を通して生涯学習も盛んであるが、個人差がある。
B	高齢者に対しては公民館サークル等が活発である。市街地から離れた住民には活動場所が少ないように思う。
B	いろいろな企画を考えて、行事も目にする事が多い。どれだけ市民の皆様へ普及するかは課題かな!?
B	ある程度整ってると思います。
C	文化財について、市民のなかにも文化財にどのようなものがあるのか十分に知らない方もまだ多いと思いますので、文化財を利用した活動やイベント等を行い広く情報発信できればより一層、市民の方にも知ってもらえると思いますし、市外からの観光客も増え、新しい観光スポットとしての期待もできるのではないかと思います。
C	文化・スポーツ活動ともに、すそを広げるためには、情報提供やPRの仕方に工夫が必要。
C	生涯学習、スポーツ振興などの企画数は足りていると思うが、開催する場所や周知など参加しやすい環境を考える必要がある、また、内容についても再考する必要がある。参加者の割合は少ないが、ライフスタイルの多様化、所得格差の広がりにより市に依存しない市民もいると思われる、更に生涯学習、スポーツに興味のない向上心の無い人もいるため参加率に固執する必要は無いのではないかと、参加率を高めようと低俗化させるよりも、生涯学習をすることの大切さを説くことが大切。

C	指導者の育成やスポーツ振興を進めて欲しいと思う。
C	程度まで良いです。
C	母町地区に住む人だけが恩恵を受けるのではなく、各地区にいて学べる環境も必要と思います(たとえば各地区にある学校をサテライトにしてインターネット回線等を用いて中継で講義を受けられるようにする等)。通信教育の活用等、もっと幅広いとらえ方があっても良いと思います。
C	どこで何を学べるのか、よくわかりません。
C	他市へ行かなくても、それなりに芸術・文化に触れられる機会を設けていると思う。
C	体育館などの施設を利用する機会が増えればよいと思う。
C	総合体育館の休館日変更と室外運動施設の隣接により利用価値を高める(テニスコートなど)。
C	専大などでの「美唄市民カレッジ」やHCCの「市民IT講習会」、「出前講座」など学びたい時に学べる場は増えてきているように思います。ただ、郷土史料館などは、市外の人はもちろん地元の私たちももっと活用するべきである。スポーツ施設も、一部老朽化してきているところもあり整備が必要になってきている。
C	スポーツ振興という点で、体育センターの存続が気になります。西側地域に総合体育館があるのに対して東側となると体育センターしかないので、今後できるだけ長く市民に利用してもらうことが大切だと思う。
C	生涯学習という点では、自分の職場の反省も踏まえてですが、もっと様々な方に門戸を開かなくてはいけないと思います。スポーツはそこそこ盛んだと思います。
C	児童や高齢者に向けたものはそれなりにあるが、それ以外の人(特に働いている人)が参加しやすいものは意外と少ない気がする。
C	この部門は市事業としては財源的な措置も厳しく、人的にも余裕がないところなのかなと思う。市役所ばかりでなく、これこそ市民との「協働」事業展開が必要と思う。
C	子供達のスポーツ少年団はたくさんありますが、活動場所が少ないので、施設がもっと使えたらいいと思います。
C	郷土史料館については、もっと活用等を考えるべき。スポーツ活動については、多方面にわたり活発に活動されていると思う。
C	各団体や各協会と協議し、全道大会・合宿等を運営できる環境(施設、宿泊、サポート体制)を工夫して呼び込める受け皿づくりができないだろうか。環境については新たに整備するのではなく、今あるものを生かして・・・。
C	各サークルや各団体が活発に活動しているように感じるが、広く市民が認知しているかは不明。
C	多くの団体が密に活動しており、充実していると感じているが、それぞれの団体のつながりや一般市民へのPRが不足しているように感じている。
C	いろいろなアイデアを持って環境づくりに努めていると思いますが、多種多様にわたっての事業を進めていくのは難しいと感じます。
C	あるとも言えるし、ないとも言える。
C	(コメントなし) 3件
D	誰もが参加できる環境、また活動場所の提供が必要。
D	行政としてすべきことが整理されていないと思う。
D	内容に工夫が足りない。参加するきっかけが無い。(誘い合いが無い)
D	体育館や市民プールの利用料が高かったです。もっと気軽に楽しんでもらうには、値下げしてその分人数を増やしたほうが良いのではないだろうかと思います。また、様々な事はしてると思うので、それを市民に知ってもらうことや気軽に参加してもらう工夫が必要だと思います。
D	スポーツランドの活用方法がない。
D	市民文化講座など、日中勤めていると参加できないことが多い。
D	市民の参加率が低く、参加率を高めるために行政は知恵を出してほしい。

E	テニスコートが荒れたまま放置されているので。
E	中央公園を整備すべき。
E	スポーツ振興を進めている割に体育センターの閉鎖があるのはおかしい。
F	西地区には交流施設があるが、東地区には少ない気がする。なので西と東との考え方は違うのではないか。
F	(コメントなし) 2件

評価の参考としたデータ <他市との比較データ>

生涯学習推進体制：空知管内10市比較

市町村における生涯学習推進体制整備状況一覧		平成20年10月1日現在(180市町村)
a 生涯学習等の推進に関わる宣言	f 生涯学習の推進に関する諮問的機関・調査審議機関	
b 生涯スポーツ等の推進にかかわる宣言	g 首長部局と教育委員会との連携を図る行政内連携調整組織	
c 生涯学習推進計画・構想	h 研究的機関・組織	
d 生涯学習を推進する趣旨の答申、建議、意見具申等	i 生涯学習を主管する行政内組織	
e 生涯学習を推進する中心的組織	j 市町村における生涯学習の中心的施設	

<凡例>
 : 設置
 i : 首長部局に設置
 c.e : 設置はないが類似を設置
 ; 検討中
 空欄 : 設置していない

市名	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
美唄市										
夕張市										
岩見沢市										
芦別市										
赤平市										
三笠市										
滝川市										
砂川市										
歌志内市										
深川市										

資料：北海道の市町村における生涯学習推進体制の整備状況調査<平成20年度版>(北海道教育委員会)

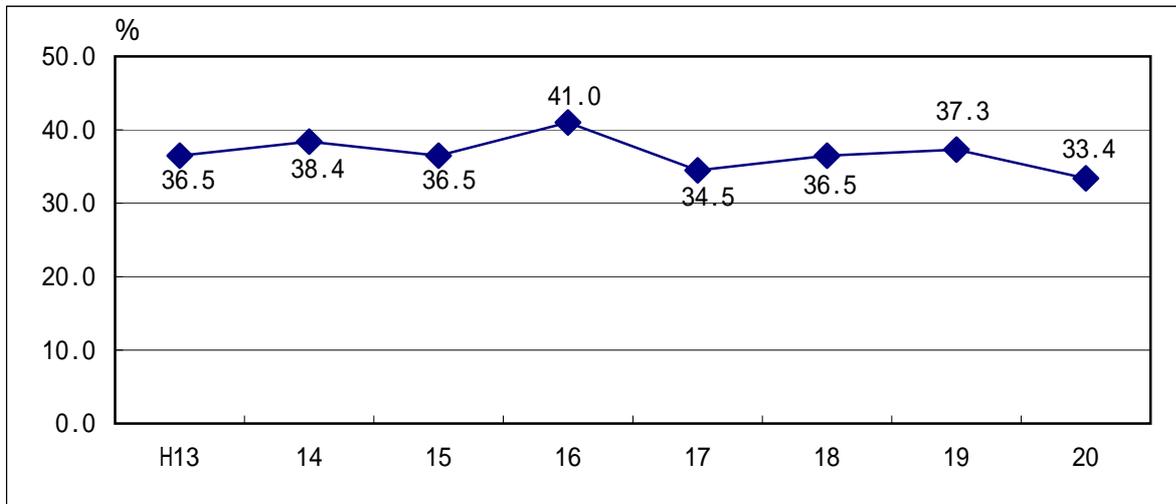
生涯学習の顕著な事業：空知管内10市

市名	事業名	備考
美唄市	美唄市民カレッジ(上期、下期、宮島沼編)	平成19年度実施分
	生涯学習フォーラム	平成19年度実施分
	美唄市生涯学習人材活用登録	平成19年度・20年度実施・予定分
岩見沢市	岩見沢市民大学	平成19年度実施分
	みんなで教育を考える日事業	平成19年度実施分
	高齢者大学	平成19年度実施分
芦別市	生涯学習まちづくり出前講座	平成20年度実施・予定分
	ザ・チャレンジ教室	平成20年度実施・予定分
赤平市	赤平市生涯学習まちづくり出前講座	平成19年度実施分
砂川市	生涯学習市民の集い	平成19年度実施分
	生涯学習情報提供事業	平成19年度実施分
	まちづくり出前講座	平成19年度実施分
歌志内市	公民館講座	平成20年度実施・予定分
	市民スポーツ大会	平成20年度実施・予定分
深川市	生涯学習推進委託事業	平成19年度・20年度実施・予定分
	生涯学習まちづくり出前講座	平成20年度実施・予定分

資料：北海道の市町村における生涯学習推進体制の整備状況調査<平成20年度版>(北海道教育委員会)

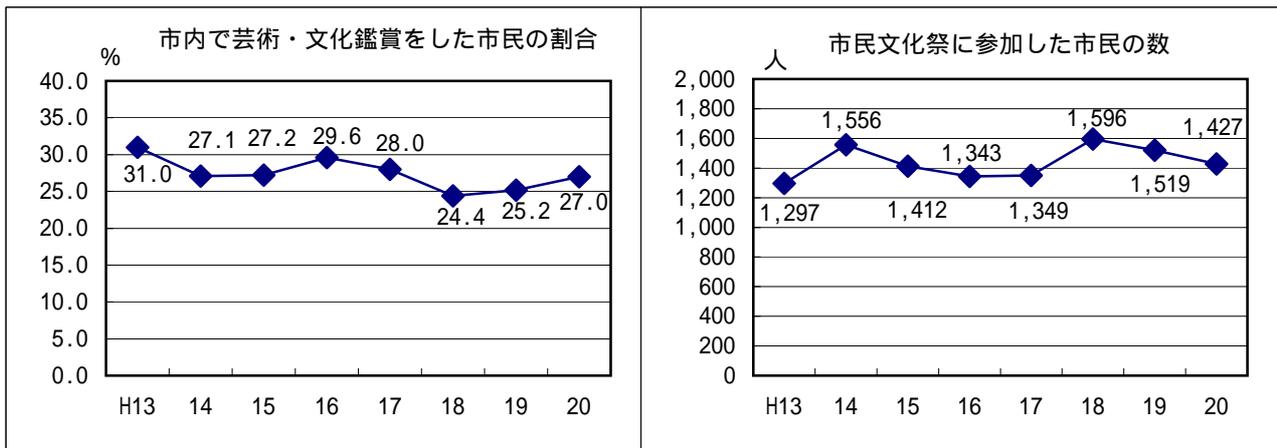
評価の参考としたデータ

生涯学習・スポーツに取り組んでいる市民の割合



資料：まちづくり市民アンケート

芸術・文化活動に参加している市民の割合等



資料：まちづくり市民アンケート

資料：美唄市生涯学習課

3 交流のまちづくり（地域間交流、国際交流、交流基盤、情報化など）

総合評価 C

総括的コメント
 アルテピアッツァ美唄やゆ～りん館、アンテナショップなどを活用した交流や、国際交流のイベントなど、交流を進める取組について評価する意見が多くありました。課題としては、交流人口をさらに増やすための情報発信の充実や子どもの国際交流や、教育の充実等が挙げられています。

< 各委員の評価の集計結果 >

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	0	12	19	12	5	2	50

< 各委員の評価の状況 >

評価	理 由
B	美唄の良さをPRする活動については、沖縄の子供たちを呼ぶとか「地域丸ごとブランド化事業」など様々行われていると思います。この交流から何が得られるかは計ることができないので大変かも。
B	美唄の特産品のPRなど精力的に行っていると思うが、観光物産協会との住み分けが不透明。
B	ポータルサイト「PiPa」の構築や、市のホームページの内容が充実していると思う。
B	中国人留学生との交流で今回は餃子パーティが開かれたと聞いたが、「食」という世界共通のキーワードで交流を深めるのには意味があることだと思う。美唄市にも特産品が多数あるが、アンテナショップやHPを活用し、今後も美唄市の食と文化を多くの人に知ってもらおうよう力を入れてほしい。
B	職業柄、よく行っていると思いますが、一般市民へはあまり周知されていないような気がします。
B	情報化と観光交流は、以前より進んだと思うが、国際交流などは後退したのではないか。
B	市民に限らず美唄をアピールする事業展開が進んでいる。
B	交流人口を増やすことによってまちの活気につながる。情報発信をまめに。
B	近年、多くの施設が整備され、地域資源の連携によるメニューが拡大されている。さまざまな側面から、資源の有効な活用が必要。
B	アンテナショップなどで徐々に交流が進んできていると思う。
B	アルテを始め、ゆ～りん館や宮島沼などの知名度は上がってきていると思うので、東明公園にオートキャンプ場が整備されればかなりの集客が期待できるのでは。（まちづくり市民アンケートでも提案されていた）
B	アルテピアッツァ美唄やゆ～りん館、アンテナショップなどの施設を生かした交流が進んでいるため、割と良くできていると感じる。
C	交流活動は良くなっていると思うが、交流の場の情報提供などがもう少し改善されれば良いかと思う。
C	美唄のポータルサイトやアンテナ・ショップなど、徐々に整備されていると思います。より一層の発信が出来れば良いと思います。
C	遠くのまちとの交流は進んでいるようにはみえませんが、隣接市町村との交流がある所では結構あるのに、ちょっとどうかな？もっと交流したり情報交換しても良いのでは？という気がしました。また、美唄市交流拠点施設は好調のようですが他の旅館業を圧迫していないか気になるところです。
C	東明公園、アルテピアッツァ、宮島沼をはじめとする豊富な交流資源があることは良い。さらに活用策を考えるべき。

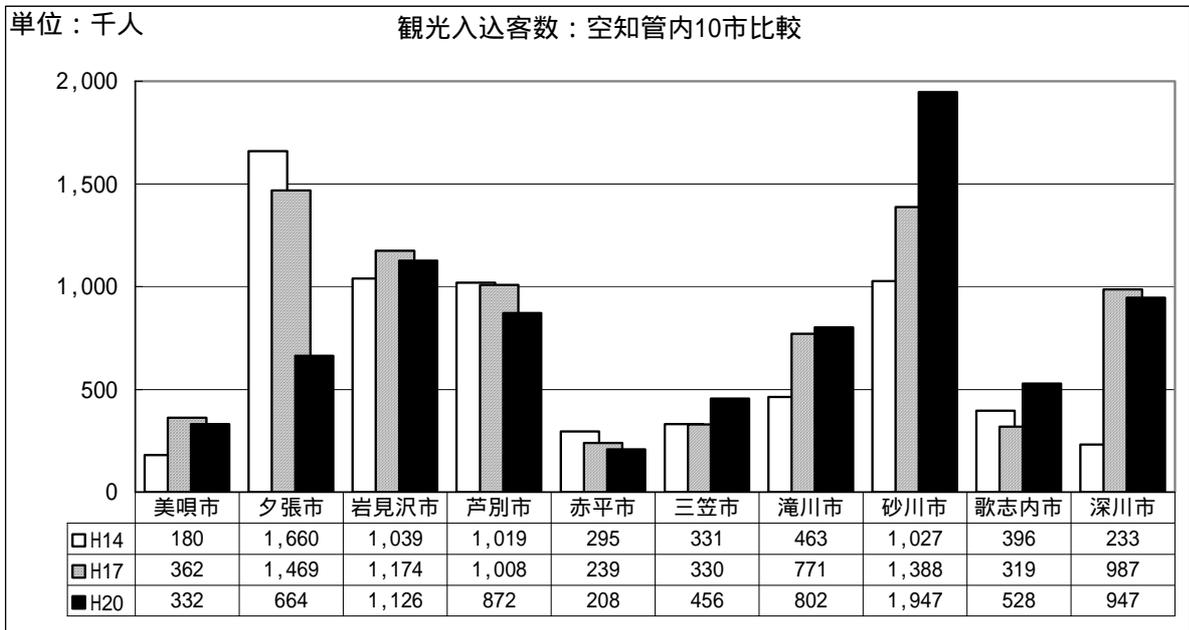
C	中国からの留学生と子ども達との交流の場を設け、遊びから言葉の壁を無くし、異文化交流ができると、今後、国際社会に対応できる子供が育っていくのではないが、専修大学でもそういったイベントに学生が参加することにより、単位が取得できるなどのカリキュラムの整備も打診してはどうか。
C	地域ごとの自主的な取組も徐々に増えてきているので、横のネットワークを広げるための支援を市で行うことが必要なのではないでしょうか。あとは、さまざまな情報の提供とか...
C	市内の良い物・場所を基点にしながら、多方面への交流を広げると共に、市内への浸透を図り、意識を高めることが必要だと思います。
C	最近は何かを調べるときにインターネットの情報を頼りにしている人が多いので、今よりもさらに外部からの視線で情報を提供したり整理したほうが良いと思う。
C	この部門は市事業としては財源的な措置も厳しく、人的にも余裕がないところなのかなと思う。市役所ばかりでなく、これこそ市民との「協働」事業展開が必要と思う。
C	国際交流については、学校の取組を柱にするなど、充実を図る必要がある。
C	交流をもつ場があまりないのでは...
C	交流施設や情報発信などの取組が進んできていると思う。これからは国際化が当たり前なので、もっと他国の子ども達を受入れた交流事業に取り組んでも良いのでは？
C	グリーンツーリズムやモニターツアーなど新たな地域間交流の動きが出てきている。ポータルサイトPiPaなども活用の仕方によっては美唄の情報を全国に、さらには海外に向けて発信していくことも出来るでしょう。今後の展開に期待しています。
C	インターネットや情報誌、口コミで沢山の人に美唄の事を知ってもらいたい。皆で、気軽にまちのことを語れるといいですね。
C	あまりよく把握できていません。
C	(コメントなし) 4件
D	東明公園の機能拡充として、東明公園の池やその周辺には、トンボや蝶等の昆虫をはじめとするたくさんの生き物が多く生息しているので、それらを観察したりなどできるように整備してはどうか。休日等を利用して親子連れがたくさん集まってくるように工夫したら良いと思う。
D	交流することが目的なのか、目的のために交流するのかビジョンが明確ではない。単独の交流だけではなく、全ての交流・福祉・学習・産業が線で結ばれなければならない。
D	各イベント(桜まつり・歌舞裸祭等)において、市内に住んでいる方ばかりが参加しているように見受けられますので、市外から観光客をもっと呼べるように広くPRできれば良いのではないのでしょうか。また、各施設においても、何度も訪れていただけるような魅力ある施設づくりに再度取り組んでいただければと思います。
D	ハコモノは市外の施設の方が立派な物がある。むしろ地域にある魅力を使った交流プログラムを専門家と共に策定すべき。
D	体験交流館や専大、HCCなど、各種交流や情報化の充実のため、協力、連携をもう少し図れたら良さそう。
D	全体的に国際交流以外の印象があまりないですが...
D	情報のインフラが整っていないし、交流事業が何を指すのか、明確でない。人が来ることだけが交流ではないでしょう。
D	多くの団体が密に活動しており、充実していると感じているが、それぞれの団体のつながりや一般市民へのPRが不足しているように感じている。
D	いいものがあるのに、観光客数がとても少ないと感じます。もっともっと美唄のいいところをPRして、市外の人に来てほしいです。そのために、まず、市内の人が楽しめるものにしていかなくてはいいと思います。観光客用にやきとり食べ歩きツアーや美唄の有名なところを回るツアーなどがあれば面白いと思います。
D	アルテやゆ〜りん館の認知度は上がってきているが、市外に向けてのPRがまだまだ足りないと思う。
D	遊びとなるとカラオケやボーリングに出かける人が多い。スポーツを推し進め、本当の遊びを学ばせるところがまだ水面下。

D	(コメントなし)
E	魅力あるまちづくりに欠けている。
E	地域間交流は必要な時だけでいいですが、国際交流はグローバルな経済に順応する子供達を育てる意味でも、もっと進めるべき。市職員の補充には外国人の登用も必要です。
E	全てにおいて交流は不足している感じがする。交流のための基盤整備も足りない。国際交流ももっと盛んにしてはどうだろうと思う。アルテ、宮島沼等を足掛かりに交流を進めては...
E	国際交流をもっと増やすべき。
E	観光客を増加させるために先ず美唄市民が自ら意欲を持って学習をする事が必要であり、学習の機会をつくるのが大切だと思います。
F	交流好きな人もいるし、嫌いな人もいる。すべての人を巻き込むのはどうかと思う。
F	(コメントなし)

評価の参考としたデータ <他市との比較データ>

観光入込客数：空知管内10市比較

年度	順位
H20年度	空知管内10市中 9 位
H17年度	空知管内10市中 7 位
H14年度	空知管内10市中10位



資料：北海道観光入込客数調査報告書

単位：千人、%

	区 分	20年度	19年度	対前年比
美唄市	入込総数	332.3	348.3	95.4
	内道外客	9.1	7.2	126.4
	内道内客	323.2	341.1	94.8
	内日帰客	311.1	324.3	95.9
	内宿泊客	21.2	24.0	88.3
	宿泊客延数	21.3	24.0	88.8

ピパの湯ゆ～りん館ランキング

～ 雑誌「北海道じゃらん」による調査

・公共温泉何でもベスト10（2007年3月号）

区 分	順 位	参 考
人気度ベスト10〔日帰り編〕	2位	1位 ながぬま温泉
人気度ベスト10〔宿泊編〕	4位	1位 芦別温泉スターライトホテル
リピート度ベスト10	3位	1位 なんぼろ温泉ハート&ハート

・宿泊満足度85点以上の宿
（2009年10月号）

順位 113位（87.4点）
（2007年では21位）
参考 1位 ファミール・イン
・ラミーナ
（倶知安町）（99.0点）

・日帰り温泉 何でもランキング2008年編（2008年12月号）

区 分	順 位	参 考
おすすめの公共温泉	10位	1位 岬の湯しゃこたん（積丹町）
露天風呂がGOODな日帰り温泉	8位	1位 岬の湯しゃこたん（積丹町）
入浴後食事をするべしの日帰り温泉	6位	1位 なんぼろ温泉ハート&ハート
お土産＆物産がある日帰り温泉	5位	1位 ユンニの湯（由仁町）

まちづくり全体

1 都市環境づくり（道路、上下水道、公営住宅など）

総合評価 E

<p>総括的コメント 公営住宅の改修・整備が進んでいない点、公共交通に対する不安、道路整備に関して本当に必要な路線の整備が行われていない点など、厳しい意見が多く出されました。</p>
--

< 各委員の評価の集計結果 >

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	0	1	1	4	7	0	13

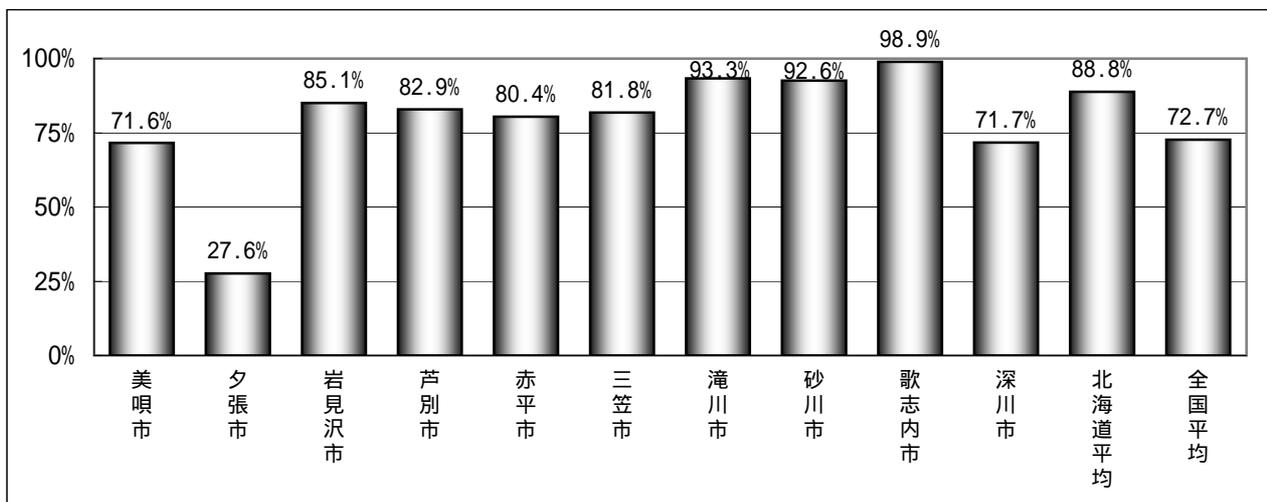
< 各委員の評価の状況 >

評価	理由
B	(コメントなし)
C	歩道のバリアフリー化と冬道の除排雪。
D	従来の公営住宅でなく、高齢者向きの医療・介護も絡めた公営住宅を推進していただきたい。
D	上下水道の整備は進んでいるが、路盤整備のされていない道路、主要道路の歩道、古い市営住宅の整備等が必要。
D	道路整備予算が少なくなっている中、本当に必要な路線の整備が行われているとは思えない。
D	J R 美唄駅周辺住民に限れば、駅に特急列車の停車が増えて一見便利になったような気がします。しかし、特急列車を毎日使う人は一部の恵まれた人に限られます。路線バスや普通列車の状況を見る限り、利便性は悪化しているように感じます。例えば、中央バスに日東市街地・市役所周辺・峰延市街地を回ってもらう工夫や、バス待合所を屋根でつなぎコンパクトにする、路線を分かりやすくする、早朝夜間に走らせる等誰もが使いやすく、優しい移動手段としてもう少しお金をかけても良い分野だと思います。また、峰延駅・茶志内駅・高速茶志内バス停入口に無料駐車スペースを設ける(舗装しなくて可)等の工夫があると良いかもしれません(市外客も取り込める)。路線バスは、全便に補助ステップを積んでおき、必要時にステップ前に置くだけでも乗降時の負担が軽くなると思います。
E	ITインフラへの取組が遅い。 事故多発場所の信号機設置。 地震に対する安全対策を講じてもらうよう意識向上。
E	計画性の乏しい整備が多い。つくったばかりの道路をカットして水道整備をする等。新規事業も大事だが今ある施設の改修に対する計画が必要と感じる。
E	人口減少で2万人になったら今の美唄市でいいのですか？10年後20年後の都市整備のビジョンが見えません。予算ではなく、計画です。
E	上下水道について、日本一の使用料金を見直さないのは何故か。減少する税収に対して、文句言われないから改善しないという姿勢がみえる。
E	公営住宅は、いなほ団地等老朽化した団地があるにもかかわらず建替えが進んでいない。
E	道路について、昔からだと思いますが、交通量の少ないような道路でも新設の舗装工事を行っているように思います。既存の舗装道路の改修・改良をした方がまだ良いのではないかと思います。
E	遊縁通りは、この1～2年で草刈等の管理の状態が著しく悪くなったと思う。

評価の参考としたデータ <他市との比較データ>

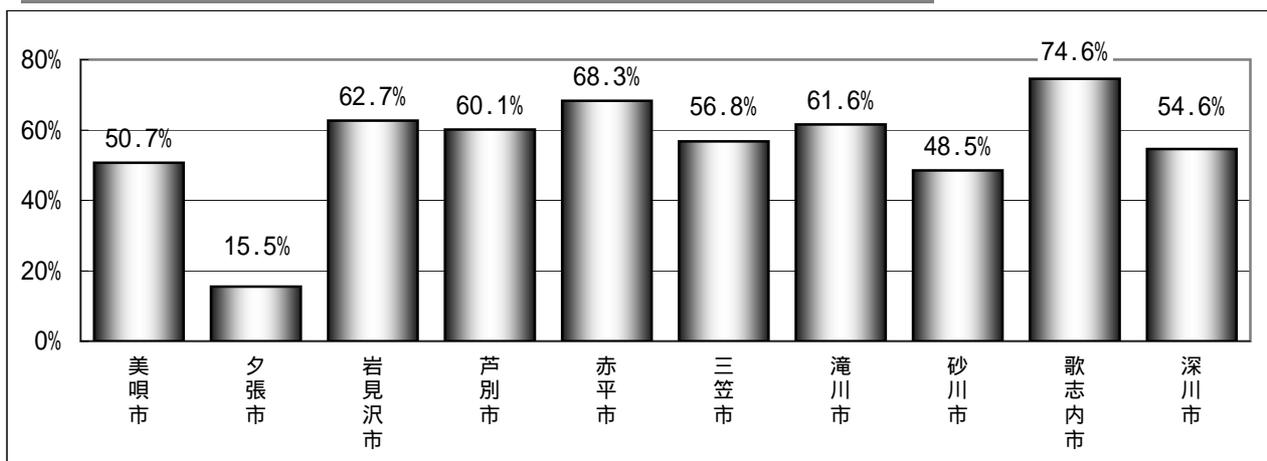
下水道普及率（対行政区域内人口）：H21年3月末現在

* 下水道普及率（対行政区域内人口）= 処理区域内人口 / 年度末住民基本台帳人口



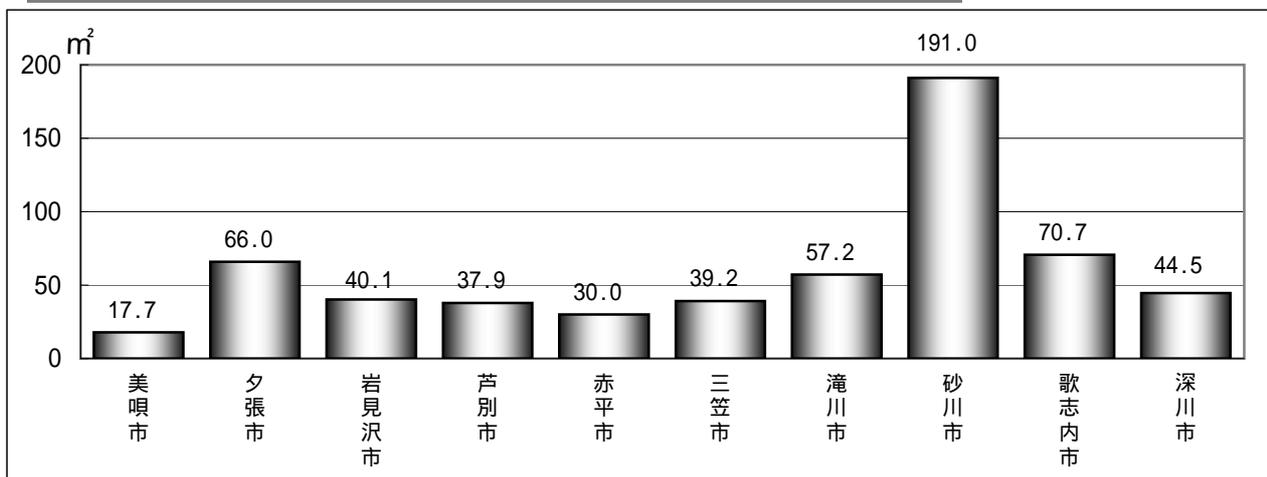
資料：全国市町村別下水道処理人口普及率一覧（（社）日本下水道協会）

道路舗装率（空知管内10市）H20年4月1日現在



資料：道路現況調査（北海道）

1人当たり都市公園面積（市立）：空知管内10市 H19年度末



資料：都市公園整備水準調査（北海道）

2 安全・安心な地域づくり（防犯、防災、消防機能の向上など）

総合評価 B

総括的コメント
自主防犯パトロール等の地域での協力体制について評価され、さらなる充実を求める意見がありました。

< 各委員の評価の集計結果 >

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	0	4	1	0	0	0	5

< 各委員の評価の状況 >

評価	理由
B	各地域で自主防犯パトロール組織ができるなど機運があがってきていると思いますので、これをさらに広げるための支援策を市で行うと良いと思います。（金銭的な支援ではなく、組織の運営の仕方とか、そういったもの）
B	高齢者世代では不審人物や詐欺等の情報を地域ぐるみで共有し、未然に事故防止を図っている地域が多い。情報が伝達されやすい地域づくりは大切であり、高齢者のネットワーク・力は大きく、期待される。
B	防災意識が低かったけど、みなさんの意見などをたくさん聞いて、家族でも話すようになりました。
B	防犯灯の設置の充実。防災に対する市民への啓発活動。
C	（コメントなし）

評価の参考としたデータ < 他市との比較データ >

安全なまちランキング

都市名	全国順位	順位（少ない順）			
		総合評価 偏差値	建物火災 出火件数	交通事故 発生件数	刑法犯 認知件数
美唄市	75	57.5	318	62	225
札幌市	244	53.0	60	350	550
夕張市	48	58.9	579	5	62
岩見沢市	152	55.1	332	122	336
芦別市	129	55.9	662	26	67
赤平市	14	61.6	399	8	35
三笠市	6	64.1	11	22	167
滝川市	129	55.9	340	90	293
砂川市	139	55.6	250	185	296
歌志内市	1	67.8	26	1	25
深川市	160	54.8	621	79	102
名寄市	40	59.2	449	9	157
根室市	75	57.5	652	4	96
伊達市	45	59.0	110	59	305

資料：都市データパック2009年版
（東洋経済新報社）
* 調査対象全国の784市
（東京特別区含む）

3 産業振興（農業振興・農村振興、工業振興、商業振興など）

総合評価 D

総括的コメント
 農業については様々な取組について評価する意見がありますが、農業経営の安定化や後継者の育成などの課題が挙げられています。
 その他の産業については、商店街の再生・活性化や雇用の場の確保を図るように取り組んでほしいという意見がありました。

< 各委員の評価の集計結果 >

評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	0	3	4	7	5	0	19

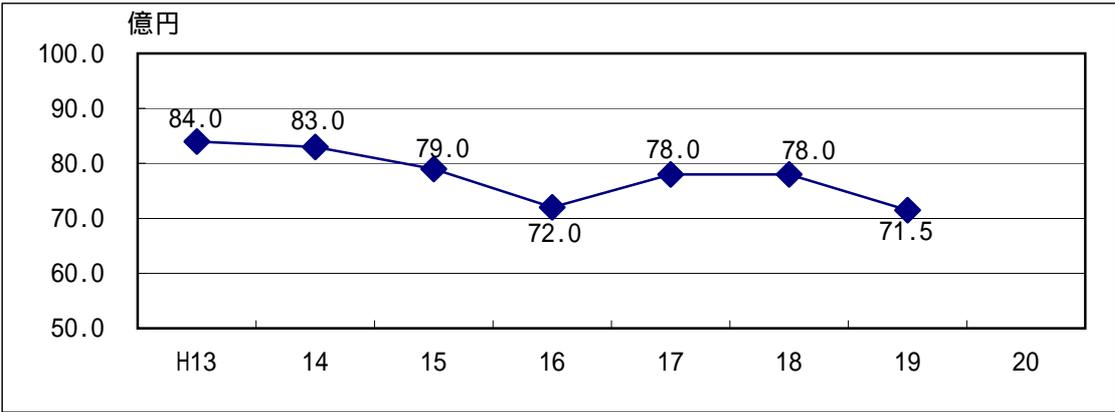
< 各委員の評価の状況 >

評価	理 由
B	イエス・グリーン表示の登録集団がH18より増えているため。しかし、やはり後継者数が少ないのが気になります。何か早めに対策を考えるべきだと思います。
B	他市の人々から美唄は色々な食べ物があって良いねと言われる事が多い。身近で分かりづらいが評判は良いのもっと全国的に売り出す（PR）を進めるべき。マスコミ、マスメディアへの売り込みも進めていければ。
B	農産物直売や体験農業、グリーンツーリズムなど、がんばっていると思う。
C	安全・安心な農産物づくりという点で農業が見直されています。難しいところはあるのですが、農業を生かしたまちづくりがもっと行われても良いかと思います。
C	基幹産業としての農業経営の安定化と後継者の育成。
C	農産物の高付加価値化や地産地消はある程度は進んでいるものの、農業経営は非常に厳しく、担い手不足も深刻化していることから、普通である。
C	非常に難しいのですが、昔からの商店街をどう再生・振興するかも大きな課題です。
D	今営業している商店に対して。
D	昨年度、旧生協跡地に作られた「まちなか交流広場」が駐車スペースとしてしか活用されていないように見受けられる。例えば、ビアガーデン、フリーマーケットなどの活用について、知恵を絞るべき。
D	将来の食文化を見据え、焼き鳥だけではなく、美唄市の農産物を加工し、国道沿い市街地に点在している空き店舗や空き地を利用してアピールし、美唄独自のものを作る。（高速のインターを美唄で買い物が増えるよう降ろさせられれば・・・）
D	年々、販売額、事業者数が下がっている。これは、三笠に大型スーパーができたりしたからかもしれない。しかし、このままいくともっと販売額等が下がってしまう。その前に何か対策があればいいと思う。
D	美唄市だけでなく空知地区のごみ資源を活用するリサイクル産業を推進していただきたい。
D	雇用の場の確保。働きやすい環境作り。
D	市内中心部の空洞化、空き店舗等の活用。
E	農協との責任の譲り合いは止めてほしい。お互いに責任があるので、相手を非難するのではなく自ら如何すべきかで行動せよ。
E	美唄市の中心市街地が衰退化している。美唄のまちに活気を出すためにも、イベントやアトラクションを商業地でおこなうなど商工会議所とも連携して何か施策を考えていくべきである。
E	美唄の特産品作りとの名目で色々な事業が見受けられますが、一例でハスカップ60トン（年間生産額）で売価は600円/kgとすると3600万円です。小さな商店の年間売上と変わりません。根本的に考え直す必要があると思いますが。

E	若い人が就職する場がない。美唄に人が集まらなくなってしまう。
E	福祉や交流などでまちを活性化しない、産業があつてこそその活性化であり産業を活性化させることがまちを活性化させることである、産業を活性化させるため、予算額ではなく、産業に携わる人の育成に力を注ぐべき。

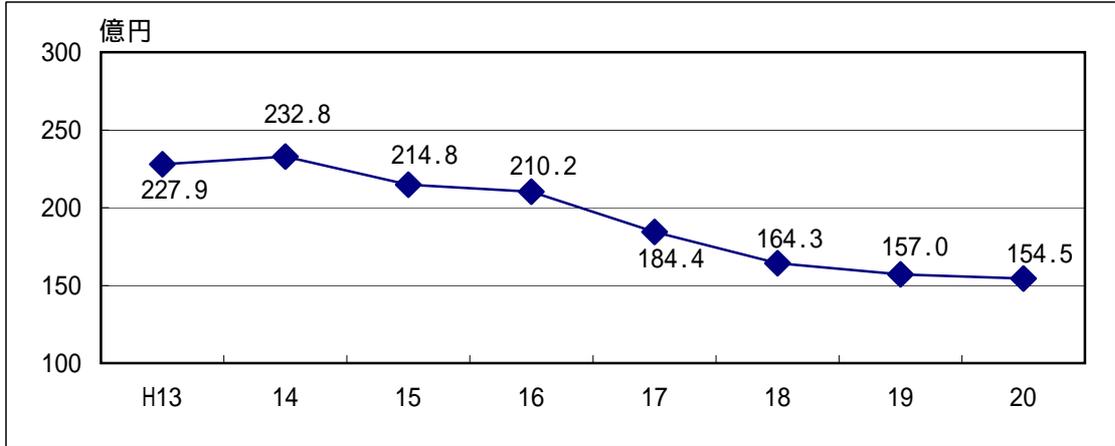
評価の参考としたデータ

農業産出額



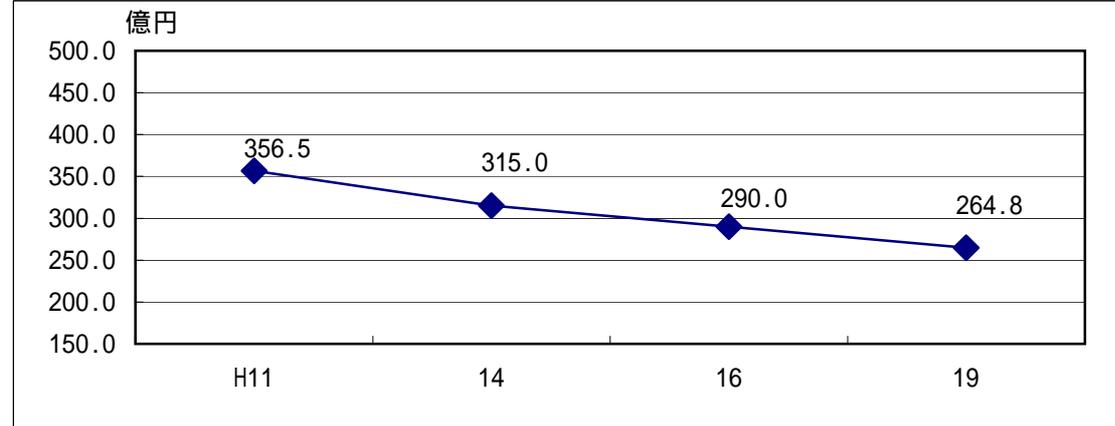
資料：北海道農林水産統計

工業出荷額



資料：工業統計調査

商業年間販売額



資料：商業統計調査

4 みんなで取り組むまちづくり（自立と協働など）

総合評価 D

総括的コメント
 協働のまちづくりを進めていくためには、市と市民が共に意識を変えて取り組んでいかなくてはならないという意見が挙げられています。

<各委員の評価の集計結果>

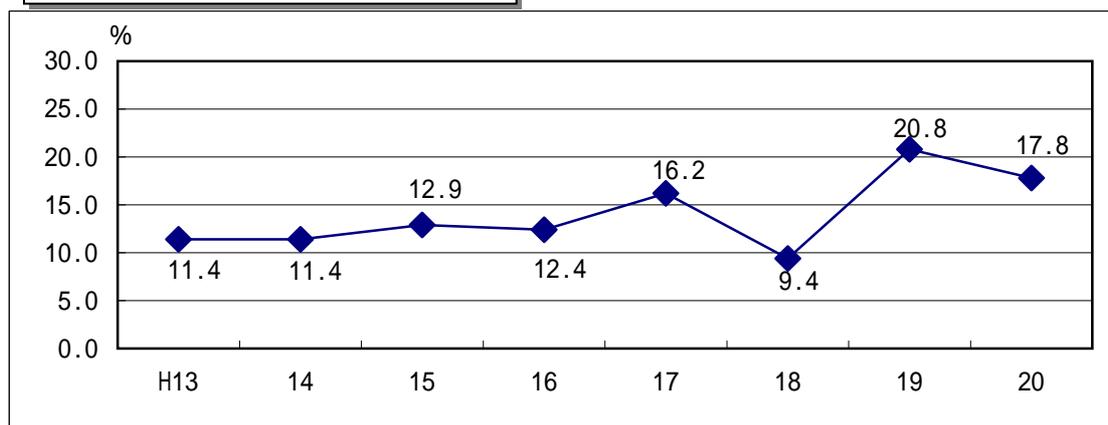
評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
集計値	0	0	2	6	0	0	8

<各委員の評価の状況>

評価	理由
C	今後の課題として、【まちづくり】を進めるためにその仕組みをどうするか、を考案していく必要があるのでは？
C	現段階では行政と市民の情報共有、情報提供が十分ではないものの、それなりに盛んな町内会や各種団体などの活動が充実してきており、普通であると感じる。
D	努力が足りない。自治体も住民も。
D	市職員、住民ともに意識改革が必要。行政と住民を結びつけるコーディネーターの育成も急務。
D	市と市民の接する場が少ないと思う。また、市と市民の一体感が感じられないと思う。
D	まずは市議を部落の代表という認識を変えてほしい。今後数十年のまちを計画するにあたって、30代40代がもっと市政に進出すべき。経験がないとか不安だという年配の方、あなたたちがこうしたんじゃないかと聞きたい。
D	市役所の働きぶりについて満足していると答えた人が8%しかいないこと、やや満足しているとあわせても32%であり、不満な人の方が多いこと。市の中心となる人が市民に対する態度を考える必要があるかもしれない。美唄を明るい良い市にするためには、まず中心の市役所からだと思う。市役所内の雰囲気が美唄の雰囲気にもつながっているのではないだろうかと思いました。
D	(コメントなし)

評価の参考としたデータ

まちづくり参画度



資料：まちづくり市民アンケート

美唄未来会議・部会構成

全体会議

委員長：山上 他美夫
副委員長：後藤 和枝
牧野 修一

正副部会長会議

くらし・地域づくり部会
健康づくり、医療、
高齢者福祉、障がい者福祉、
生涯学習・スポーツ、
コミュニティ など

うるおい・まち並み部会
環境、緑づくり、景観、
都市基盤、公共交通、
住宅、防災・防犯、
情報化 など

にぎわい・人づくり部会
産業、交流、
芸術文化、教育、
子育て支援、
男女共同参画 など

共通事項 財政、行政改革、協働のまちづくり、情報公開・個人情報保護、広報・広聴

石坂 信一郎
大村 喜久夫
大山 敏之(市)
岡村 希恵(市)
置田 孝浩(市)
北清 孝夫(市)
儀同 清秀
古賀 奈々絵
笹浪 聖子
島影 俊孝
関 佳美(市)
高瀬 謙二郎
対馬 俊之
長江 祐司(市)
西尾 哲春
蓮井 圭一
林 啓介(市)
樋浦 敏幸
深尾 善則(市)
藤田 進
吉田 美奈

21人
女性5人
男性16人

工藤 由季夫(市)
後藤 和枝
小林 真樹(市)
桜井 敬大(市)
佐藤 隆行
清水 直樹
清水 真史(市)
高橋 重美(市)
巽 執(市)
種市 一隆(市)
畑山 織江
林 民子
三澤 祥子
三澤 正裕
村橋 広基(市)
本住 幸憲
山上 他美夫
山口 重蔵
山本 進一(市)
脇田 陽一

20人
女性6人
男性14人

内山 裕史
江川 順一
老松 幸信
奥山 敦史
奥山 泰明(市)
川村 真紀(市)
古賀 崇之
島田 文雄
新 宗晃(市)
関 耕介(市)
中荃 裕美(市)
西川 一仁
野口 鉄平
蓮沼 郁子
福田 弘樹(市)
藤井 聡志
牧野 修一
舩森 慧津子
宮崎 修一
武藤 和哉(市)
毛利 清徳
山本 牧伯
蓬田 昌広(市)

23人
女性4人
男性19人

：部会長 ：副部会長 (市)：市職員委員

美唄市事務事業評価システム実施要綱

平成 13 年 6 月 28 日
庁 達 第 33 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、事務事業、施策及び政策の評価の円滑な実施とその結果の適切な活用及び市民への情報提供を図ることにより、合理的な事務事業の選択と市民サービスの質の向上、市政の透明性の確保と説明責任の遂行、簡素・効率化の視点からの行政資源の効果的配分を実現するため、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この要綱において、次の各号に定める用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 事務事業評価システム 事務事業、施策及び政策に関する評価体系全体をいう。
- (2) 事務事業 予算を伴う行政活動の基本的単位をいう。
- (3) 施策 事務事業を目的ごとにまとめたものをいう。
- (4) 政策 施策を目的ごとにまとめたものをいう。
- (5) 実施機関 市長、教育委員会、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会及び消防長をいう。

(評価の対象)

第 3 条 事務事業評価システムの対象は、実施機関が行うすべての事務事業、施策及び政策とする。

2 前項に定めるもののほか、新規事業については、事前評価を行うものとする。

(事務事業の評価)

第 4 条 実施機関の各所属長は、その所管する事務事業について毎年度一次評価を行う。

2 一次評価の結果について、全庁的な視点に立った二次評価を行うため美唄市事務事業評価チーム(以下「評価チーム」という。)を設置する。

3 評価チームは、次の各号に掲げる職にある者で構成する。

- (1) 地域経営室長
- (2) 財政課長
- (3) 総務課長
- (4) 地域経営室主幹(地域経営担当)

4 前 3 項の規定は、事前評価についても同様とする。

(施策の評価)

第 5 条 実施機関の所属長は、その所管する施策について毎年度施策評価を行う。

(政策の評価)

第 6 条 実施機関は、政策について 3 年ごとにまちづくり評価(政策に関する評価をいう。)を行う。

2 前項の評価は、外部評価により行うものとする。

(評価結果の公表)

第 7 条 事務事業評価システムによる評価結果は、すべて公表する。

(評価結果の活用)

第 8 条 評価結果は、総合計画の推進管理、政策検討・重点施策などの政策展開、予算編成、組織機構整備、事務改善等市政のあらゆる分野に活用させるものとする。

(その他)

第 9 条 この要綱に定めるもののほか事務事業評価システムに関して必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成 13 年 7 月 1 日から施行する。

付 則 (平成 15 年庁達第 20 号)

この要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

付 則 (平成 16 年庁達第 21 号)

この要綱は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

付 則 (平成 18 年庁達第 22 号の 2)

この要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。